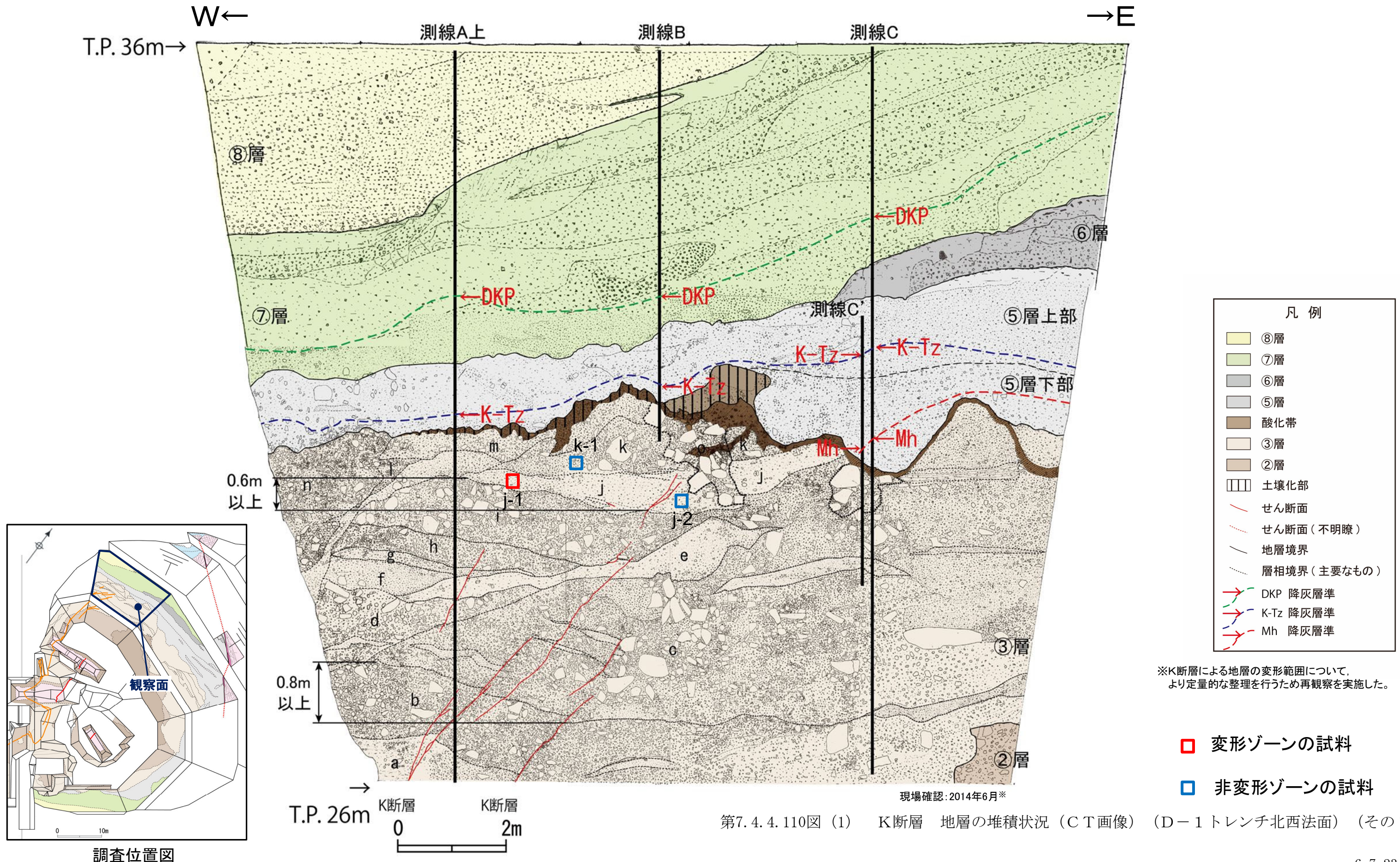
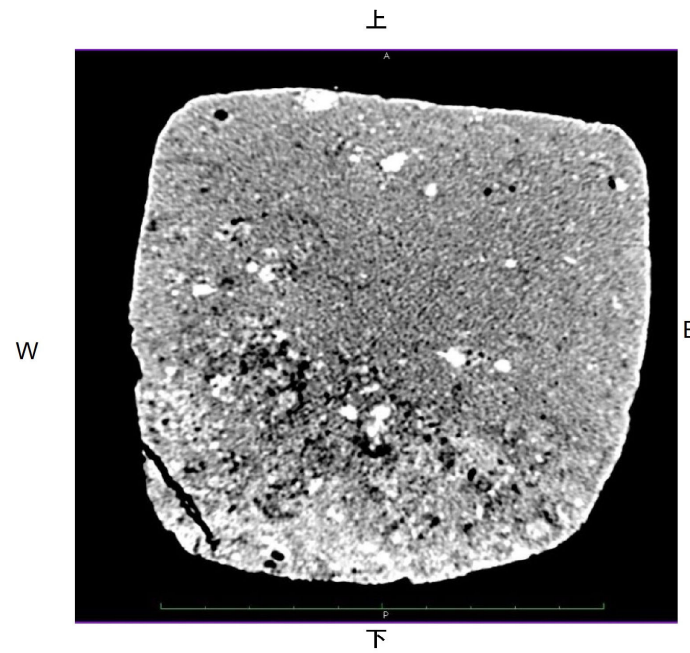


- K断層による影響を受けたj層西側の地層と受けていないj層東側の地層及びk層の堆積状況についても、さらに詳細に把握するため、ブロックサンプルのCT観察を行った。
- その結果、K断層によって変形を受けたj層西側の地層については堆積構造が東に傾斜していることが確認されたが、K断層による変形を受けていないj層東側の地層及びk層についてはほぼ水平に堆積している状況がCT観察からも確認された。
- D-1トレンチ北西法面のブロックサンプル取得位置を示す。

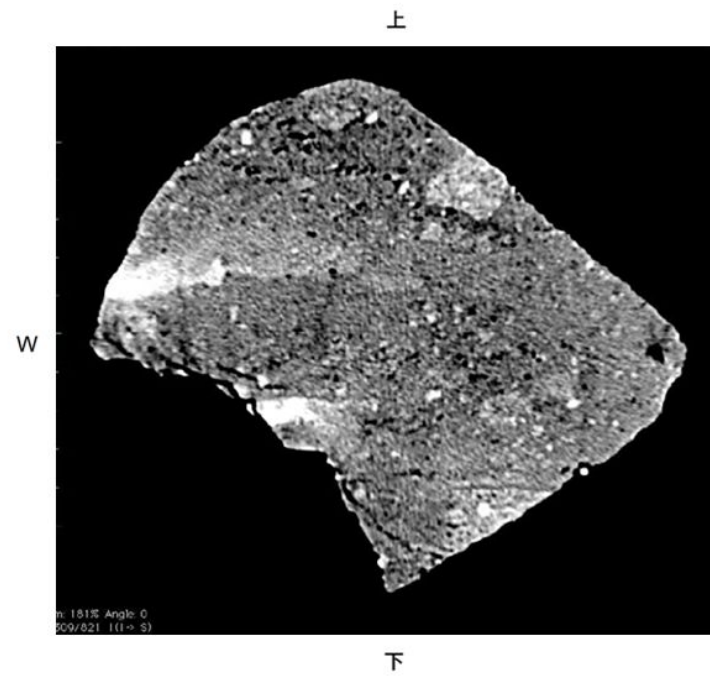


第7.4.4.110図(1) K断層 地層の堆積状況 (CT画像) (D-1トレンチ北西法面) (その1)

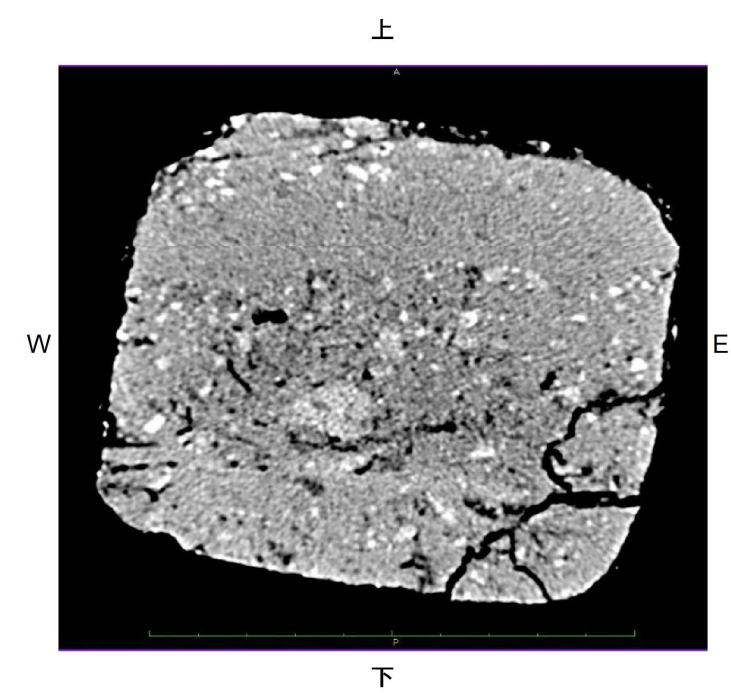
• K断層によって変形を受けたj層西側の地層については堆積構造が東に傾斜していることが確認されたが、K断層による変形を受けていないj層東側の地層及びk層についてはほぼ水平に堆積している状況がCT観察からも確認された。



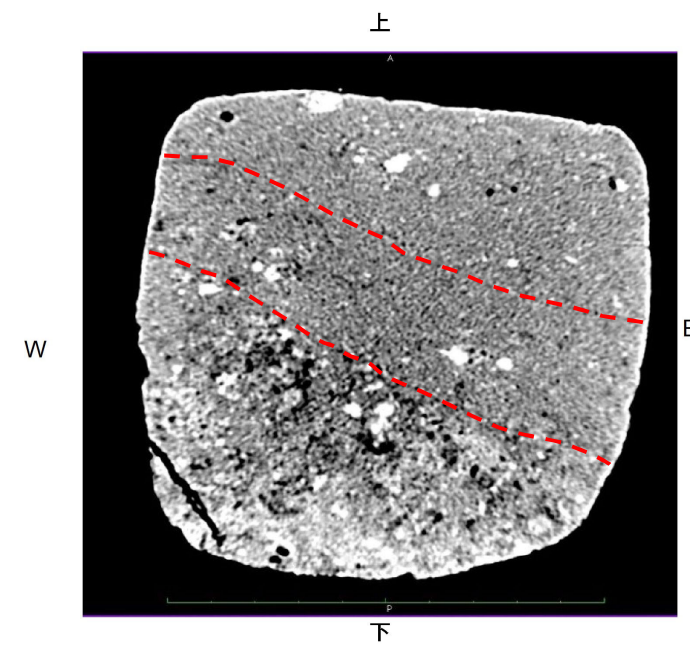
j-1 (K断層による影響を受けたj層西側)



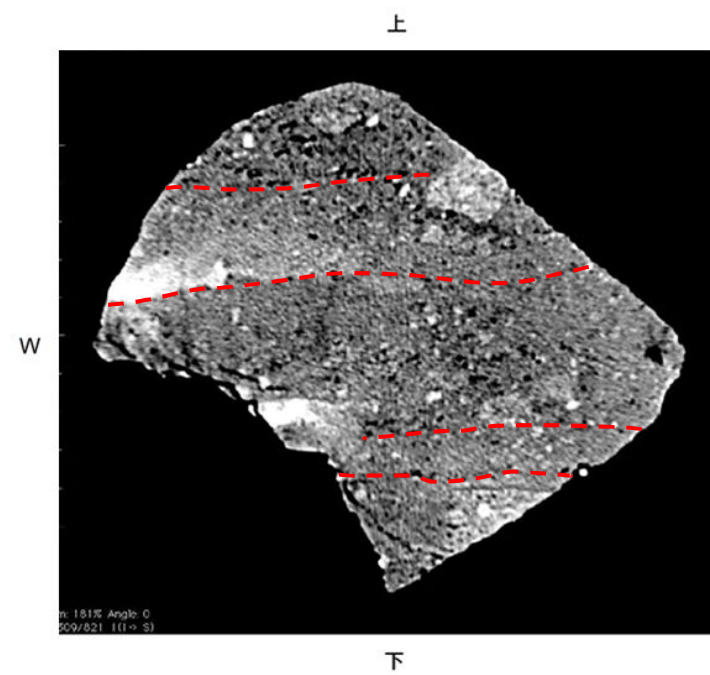
j-2 (K断層による影響を受けていないj層東側)



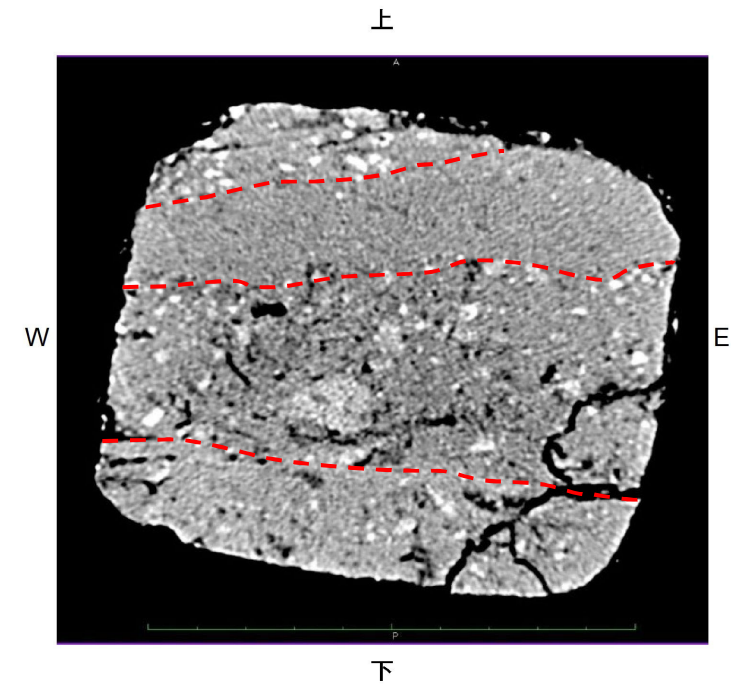
k-1 (K断層による影響を受けていないk層)




j-1 (K断層による影響を受けたj層西側)



j-2 (K断層による影響を受けていないj層東側)



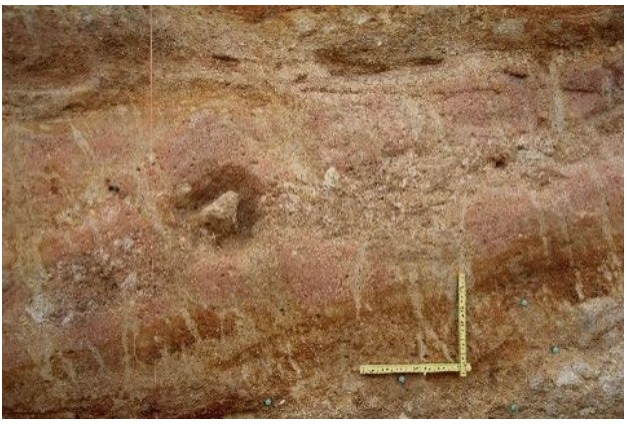





k-1 (K断層による影響を受けていないk層)

※試料はいずれも定方位で採取し、定方位を維持した状態でCT撮影を行った。  : 堆積構造

第7.4.4.110図 (2) K断層 地層の堆積状況 (CT画像) (D-1 トレンチ北西法面) (その2)

- 原電道路ピット及びふげん道路ピット東法面に見られる③層中のD1層, D2層及びD3層は, D-1トレンチ入口南側法面まで連続して分布しており, 南側法面ではD1層, D2層及びD3層が⑤層に不整合関係で覆われている。
- 原電道路ピットの③層中のD1層, D2層及びD3層は, 層相の類似性からもD-1トレンチの③層に対比される。

地層名	地層区分	原電道路ピット		D-1トレンチ入口南側法面	
		写真	性状	写真	性状
③層	D3		砂礫(浅黄橙色主体) 径1~3cmの礫(最大径25cm) を主体とし, 基質は砂からなる。		砂礫(浅黄橙色主体) 径2~5cmの礫(最大径50cm) を主体とし, 基質は砂からなる。
	D2		シルト質砂~礫混じり砂質 シルト(にぶい橙色主体) 部分的に礫が混じるが, シルト~中粒砂からなる。 風化の影響により斑状模様 を呈する。		礫混じり砂質シルト (にぶい橙色主体) 部分的に礫が混じるが, シルト~中粒砂からなる。 風化の影響により斑状模様 を呈する。
	D1		砂礫(橙色主体) 径1~3cmの礫(最大径15cm) を主体とし, 基質は砂からなる。 下位層を削り込んでいる。		砂礫(橙色主体) 径2~5cmの礫(最大径30cm) を主体とし, 基質は砂からなる。 下位層を削り込んでいる。

第7.4.4.111図 D-1トレンチ ③層の対比

・D-1トレンチ入口南側法面の⑤層からは、美浜テフラが検出された。

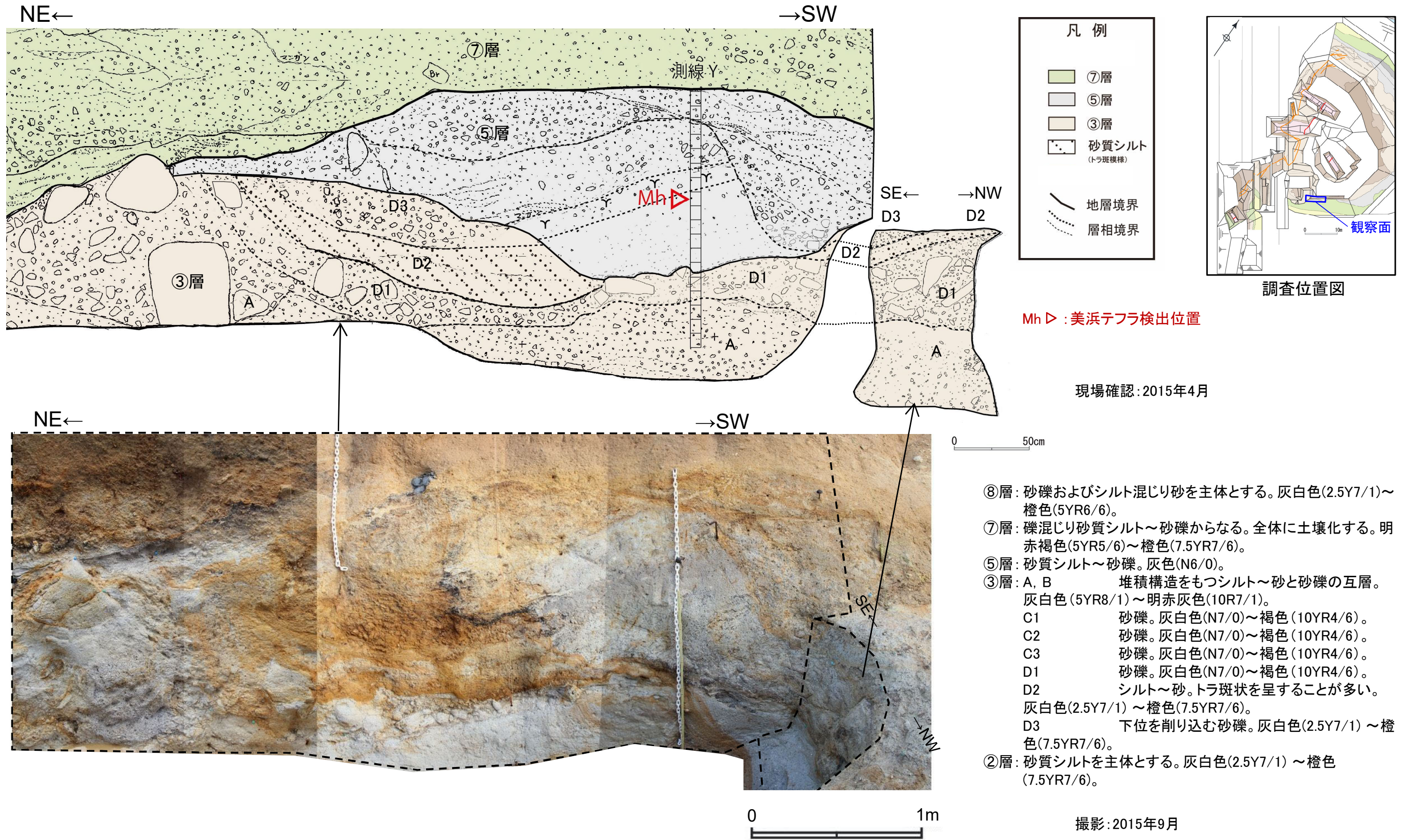


- ⑧層: 砂礫およびシルト混じり砂を主体とする。灰白色(2.5Y7/1)～橙色(5YR6/6)。
- ⑦層: 礫混じり砂質シルト～砂礫からなる。全体に土壌化する。明赤褐色(5YR5/6)～橙色(7.5YR7/6)。
- ⑤層: 砂質シルト～砂礫。灰色(N6/0)。
- ③層: A, B 堆積構造をもつシルト～砂と砂礫の互層。灰白色(5YR8/1)～明赤灰色(10R7/1)。
- C1 砂礫。灰白色(N7/0)～褐色(10YR4/6)。
- C2 砂礫。灰白色(N7/0)～褐色(10YR4/6)。
- C3 砂礫。灰白色(N7/0)～褐色(10YR4/6)。
- D1 砂礫。灰白色(N7/0)～褐色(10YR4/6)。
- D2 シルト～砂。トラ斑状を呈することが多い。灰白色(2.5Y7/1)～橙色(7.5YR7/6)。
- D3 下位を削り込む砂礫。灰白色(2.5Y7/1)～橙色(7.5YR7/6)。
- ②層: 砂質シルトを主体とする。灰白色(2.5Y7/1)～橙色(7.5YR7/6)。

現場確認: 2014年11月

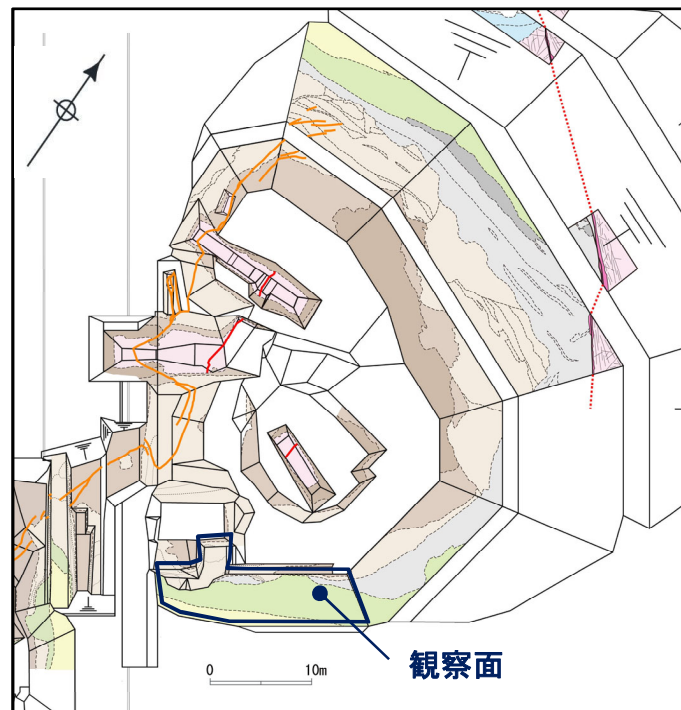
第7.4.4.112図 (1) D-1トレンチ トレンチ調査結果 (D-1トレンチ入口南側法面) (その1)

- D-1トレンチ入口南側法面のうち、測線Y付近の拡大スケッチと写真を示す。
- D-1トレンチ入口南側法面の⑤層からは、美浜テフラが検出された。



第7.4.4.112図 (2) D-1トレンチ トレンチ調査結果 (D-1トレンチ入口南側法面) (その2)

• D-1トレンチ入口南側法面の⑤層からは美浜テフラが検出された。また、⑦層からDKPが検出されており、D-1トレンチの北法面及び北西法面と調和的な結果である。



凡例

□	⑧層
□	⑦層
□	⑤層
□	③層
□	砂質シルト (トラ斑模様)
□	②層
—	地層境界
---	層相境界

- ⑧層: 砂礫およびシルト混じり砂を主体とする。灰白色(2.5Y7/1)～橙色(5YR6/6)
- ⑦層: 礫混じり砂質シルト～砂礫からなる。全体に土壌化する。明赤褐色(5YR5/6)～橙色(7.5YR7/6)
- ⑤層: 砂質シルト～砂礫。灰色(N6/0)
- ③層: A, B 堆積構造をもつシルト～砂と砂礫の互層。灰白色(5YR8/1)～明赤灰色(10R7/1)
- C1 砂礫。灰白色(N7/0)～褐色(10YR4/6)
- C2 砂礫。灰白色(N7/0)～褐色(10YR4/6)
- C3 砂礫。灰白色(N7/0)～褐色(10YR4/6)
- D1 砂礫。灰白色(N7/0)～褐色(10YR4/6)
- D2 シルト～砂。トラ斑状を呈することが多い。灰白色(2.5Y7/1)～橙色(7.5YR7/6)
- D3 下位を削り込む砂礫。灰白色(2.5Y7/1)～橙色(7.5YR7/6)
- ②層: 砂質シルトを主体とする。灰白色(2.5Y7/1)～橙色(7.5YR7/6)

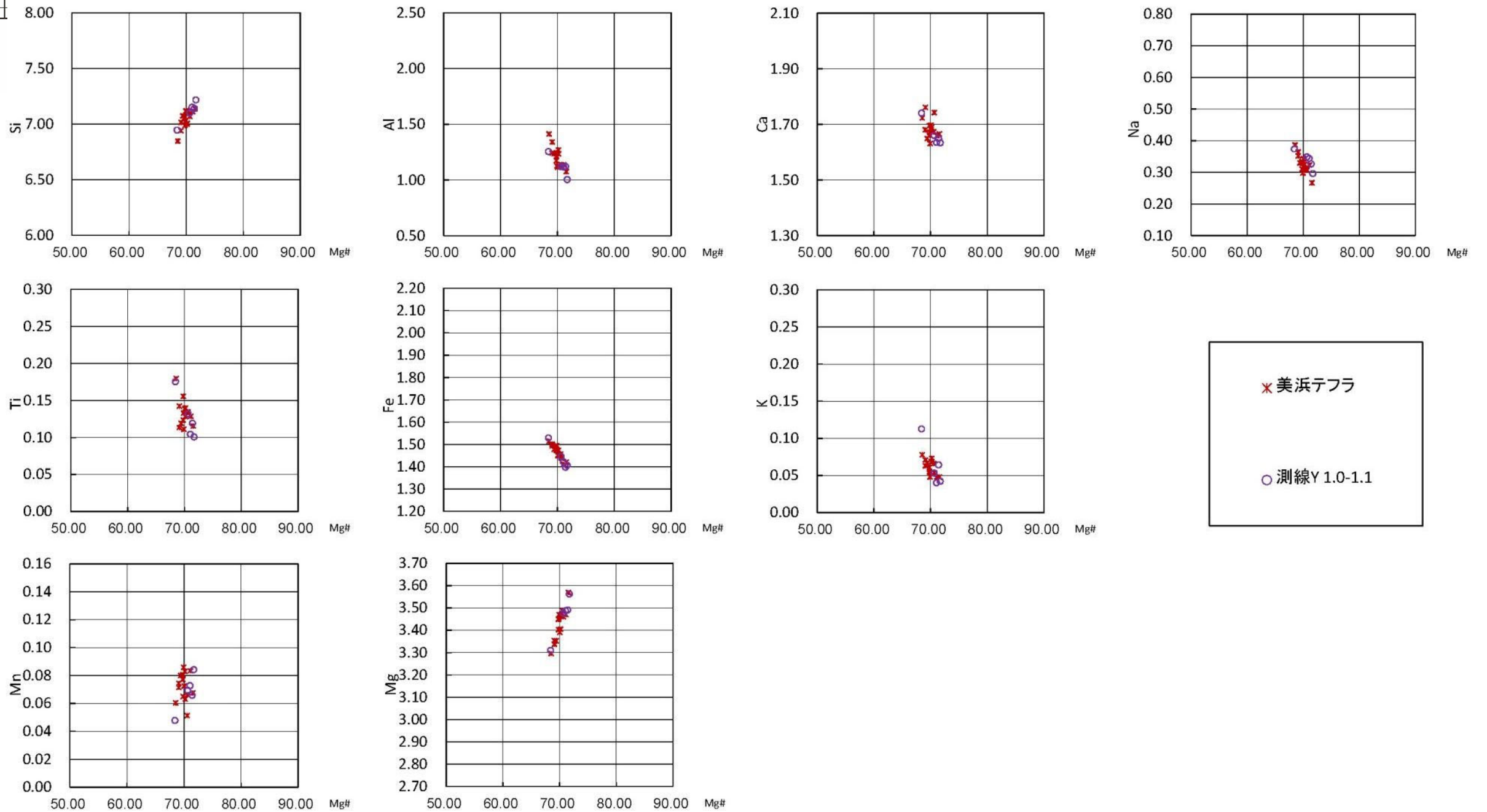
第7.4.4.113図 (1) D-1トレンチ テフラ分析結果 (D-1トレンチ入口南側法面) (その1)

測線Yの普通角閃石の主成分分析結果によれば, Mg#の範囲及び各元素の含有量の範囲の重なりが良いことから, 美浜テフラに対比される。

測線Y (濃集分析)

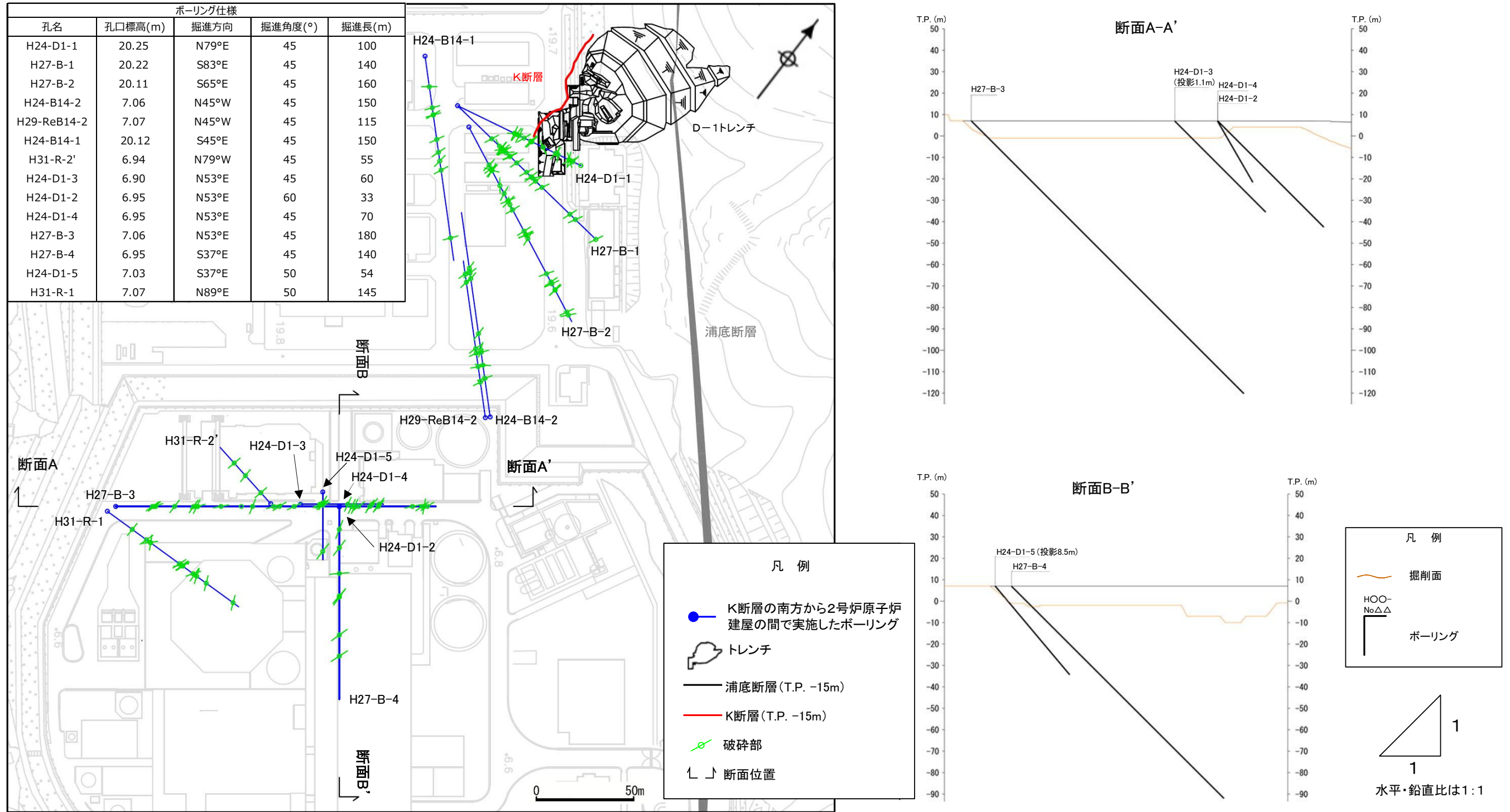
試料番号	テフラ名	総試料1g中の重鉱物含有個数						
		Opx		GHo			Cum	
		4.0	8.0	50	100	150	5	10
1.7-1.8								
1.6-1.7								
1.5-1.6								
1.4-1.5								
1.3-1.4								
1.2-1.3								
1.1-1.2								
1.0-1.1								
0.9-1.0								
0.8-0.9								
0.7-0.8								
0.6-0.7								
0.5-0.6								
0.4-0.5								
0.3-0.4								
0.2-0.3								
0.1-0.2								
0.0-0.1								

● 主成分分析位置



第7.4.4.113図 (2) D-1 トレンチ テフラ分析結果 (D-1 トレンチ入口南側法面) (その2)

- K断層はD-1トレンチ北西法面からふげん道路ピットの中央付近まで連続している断層であるが、南方の2号炉の耐震重要施設及び重大事故等対処施設の直下に延長する可能性についても検討した。
- K断層が南方へ連続する可能性の検討は、敷地の破碎帯の連続性評価基準に基づき、K断層の性状に着目して実施した。検討においては、K断層の南方から2号炉原子炉建屋の間で実施した14孔のボーリング調査を対象に実施した。



K断層の南方から2号炉原子炉建屋の間で実施したボーリング調査位置図

第7.4.4.114図 K断層の南方から2号炉原子炉建屋の間で実施したボーリング調査位置図

- K断層の基盤岩における確認箇所の性状を下記に示す。
- K断層の走向は主としてN-S～NNE-SSW方向であるが、D-1トレンチ1-1ピットの底盤付近において局所的に走向はNW-SE方向となる。傾斜は中～高角度の西傾斜である。破碎部は熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。最新活動時の変位センスはいずれの破碎部も逆断層成分が卓越している。

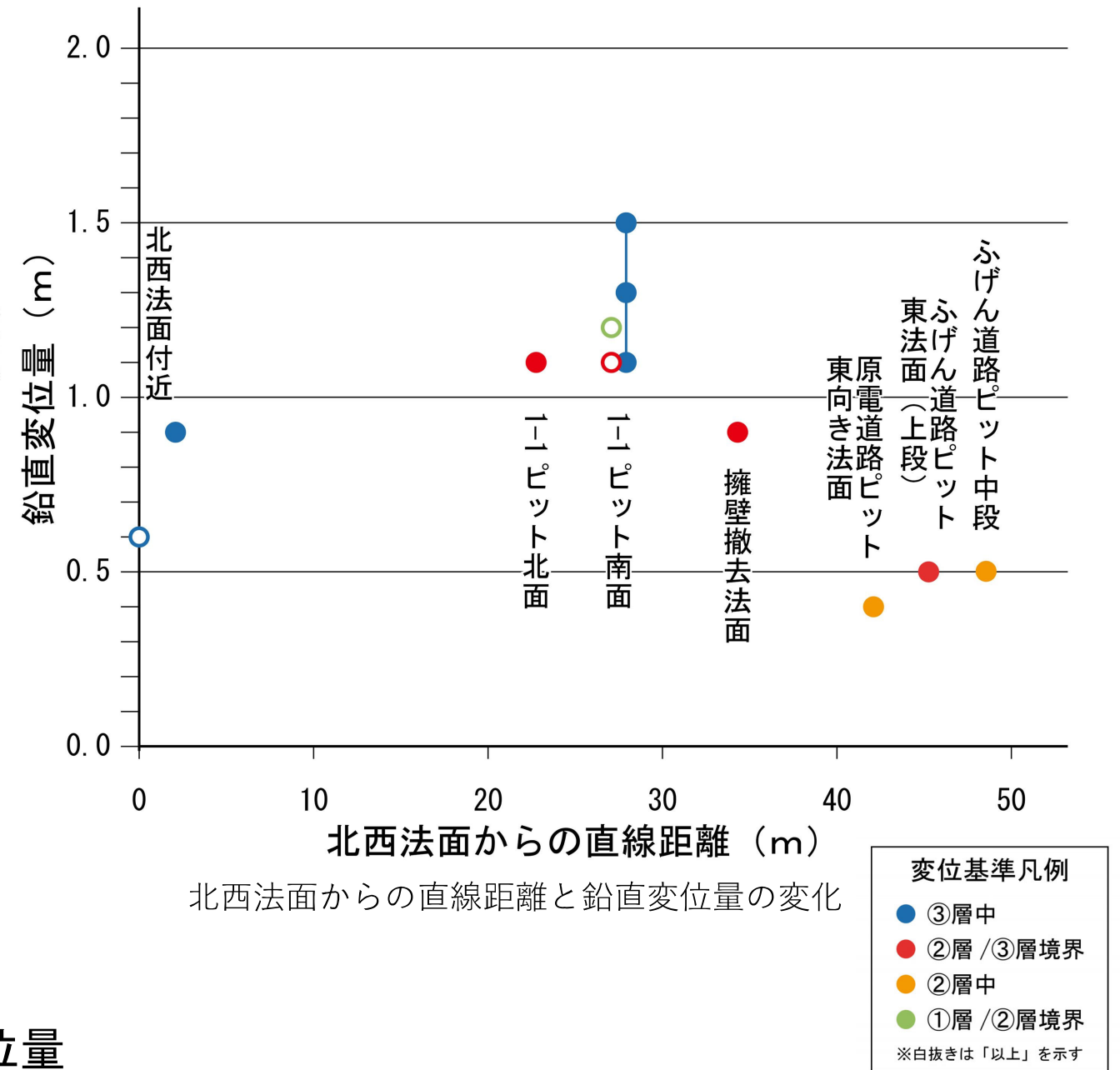
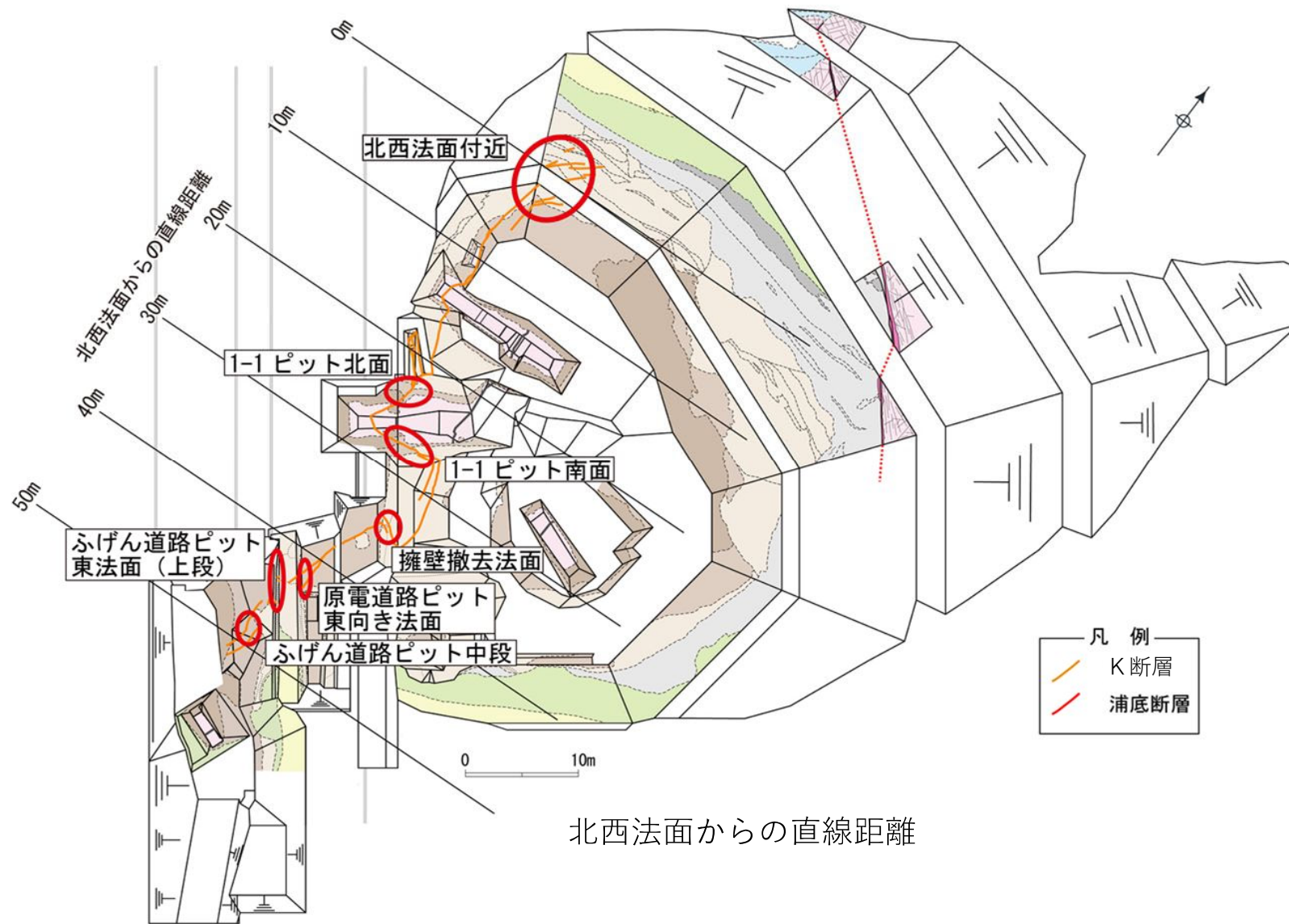
K断層の基盤岩における破碎部性状一覧

確認箇所	走向	傾斜	断層ガウジ・ 断層角礫の有無 ※1	条線 ※2	変位センス
H24-A-11	N5W	89W	有	80R	逆
H24-E'-2	NS	87W	有	60R	逆, 右
H24-E'-1	NS	66W	有	55L	逆, 左
Lカットピット	N13W	76W	有	80R	逆
H24-E-2	N33W	60SW	有	53R	逆, 右
H24-E-1	N21W	71W	有	55R	逆, 右
2-1ピット	N1W	69W	有	78R	逆
H24-B'-1	N12W	89W	有	55L	逆, 左
H24-B'-2	N4E	73W	有	70R	-
H24-H-2	N29W	66W	有	75R	-
H24-B'-3	NS	84W	有	50L	逆, 左
1-1ピット北面	N10W	60W	有	86R	逆 ※3
1-1ピット底盤1	N66W	76S	有	70L	逆
1-1ピット底盤2	N54E	67E	有	25R	逆, 右 ※3
1-1ピット底盤3	N74W	68W	有	63L	逆, 左 ※3
1-1ピット南面1	N23W	69W	有	79R	逆 ※3
1-1ピット南面2	N43W	80W	有	87L	逆 ※3
1-1ピット南面3	N79W	52W	有	82L	逆 ※3
H24-H-6-1	NS	64W	有	61R	逆
H24-H-6	N23W	52W	有	75L	逆
H24-H-9-1	NS	86W	有	60L	逆, 左
H27-G-1	-	-	有	-	-
H27-G-2	-	-	有	-	-
H27-G-3	-	-	有	-	-
H27-G-4	-	-	有	-	-
H27-G-5	-	-	有	-	-
H27-G-6	-	-	有	-	-
H24-H-14	N3W	55W	有	50R	逆, 右
H24-H-13	N10W	72W	有	50R	逆, 右
H27-F-1	N11E	76W	有	70L	-
H27-F-5	N12E	81W	有	60L	-

- ※1:「断層ガウジ・断層角礫の有無」は、断層岩区分の総合評価の結果を記載している
 ※2:斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
 ※3:ピットでの地質分布と条線の関係から変位センスを評価した箇所

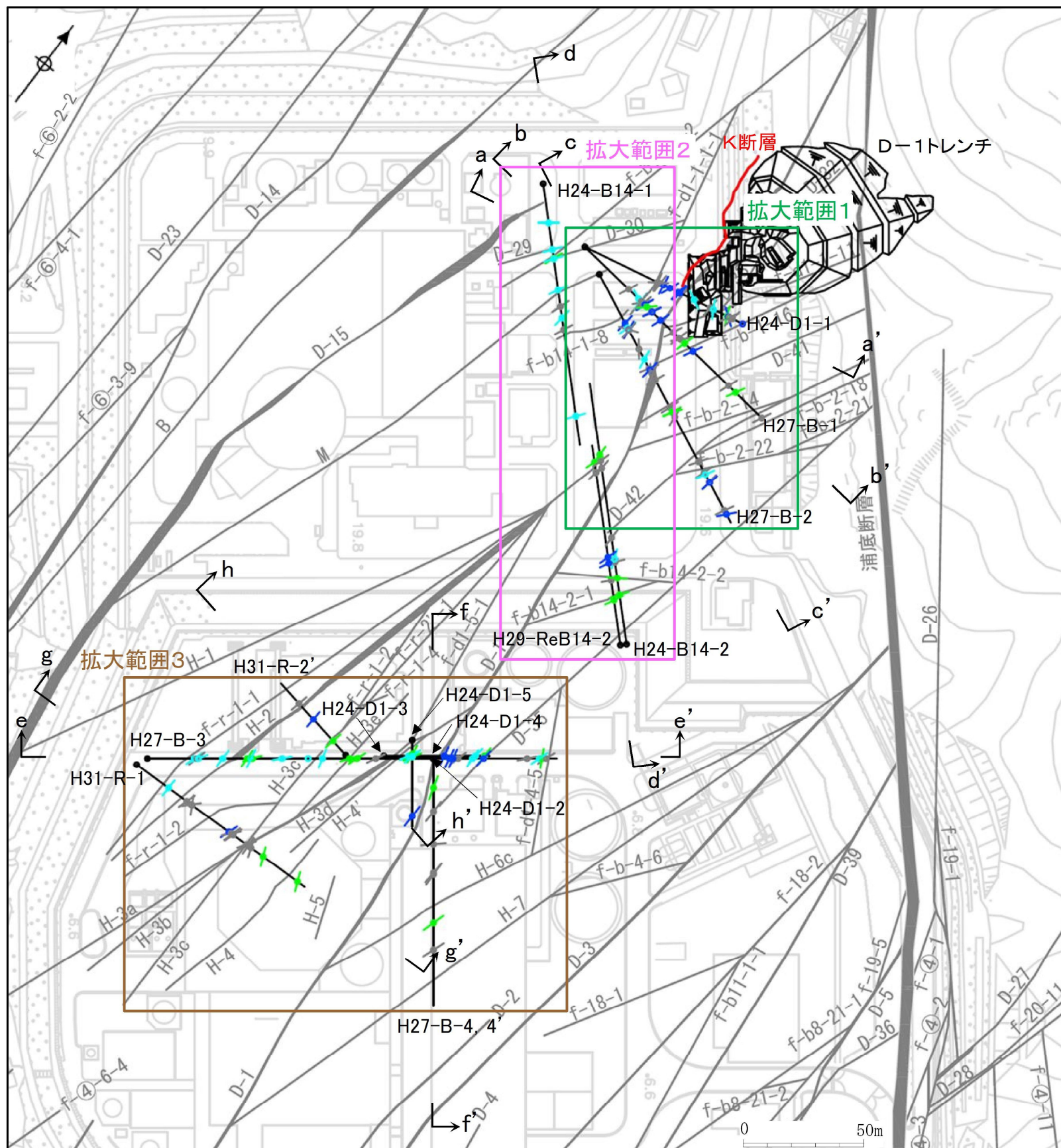
- :データが得られていないもの

- ①層から③層中の地層境界や層相境界を変位基準としたK断層の鉛直変位量は、北西法面付近から南方の1-1ピットに向かってやや増加し、更に南方の原電道路ピット及びふげん道路ピットにかけて急激に減少している。
- これらの鉛直変位量には断層変位の累積性は認められない。



K断層の鉛直変位量

第7.4.4.116図 K断層の鉛直変位量分布



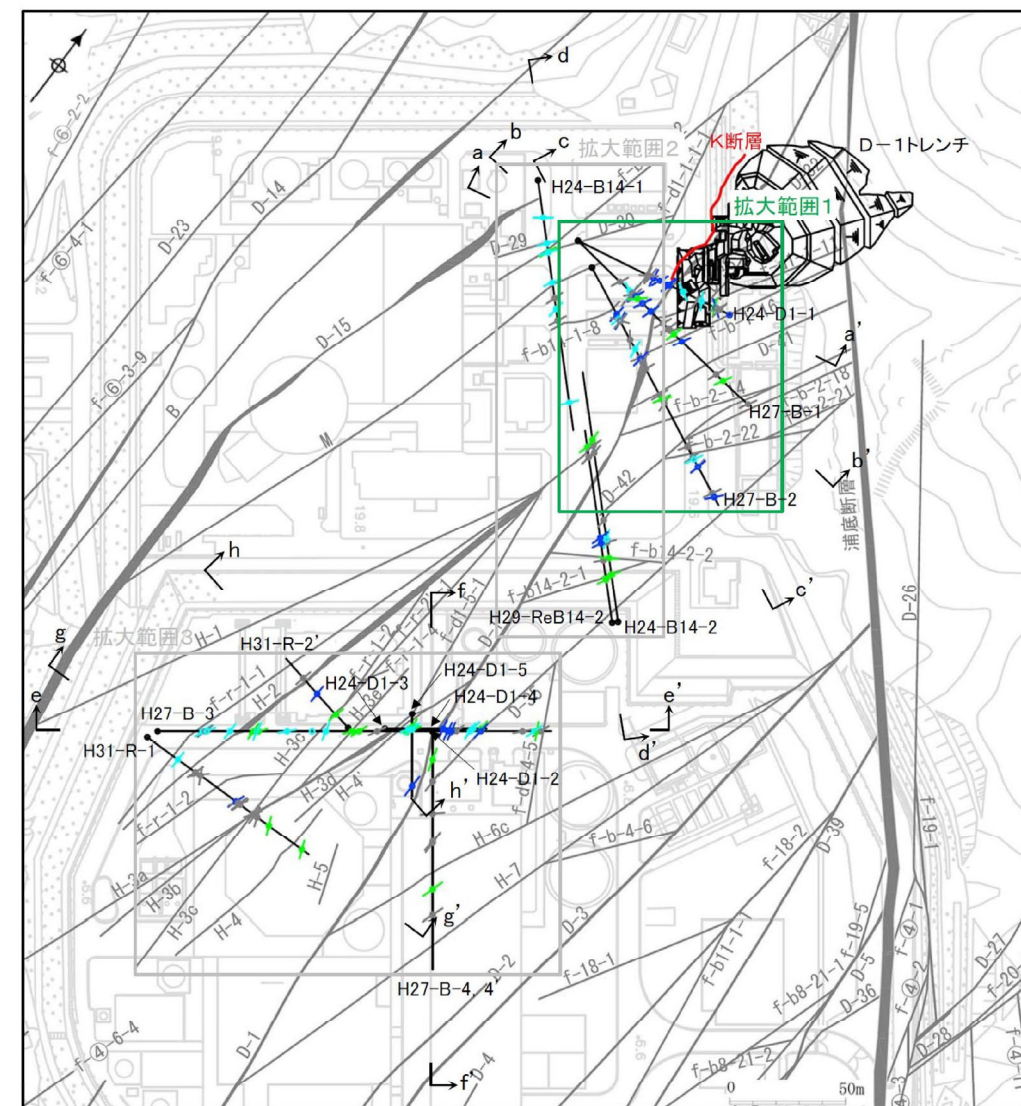
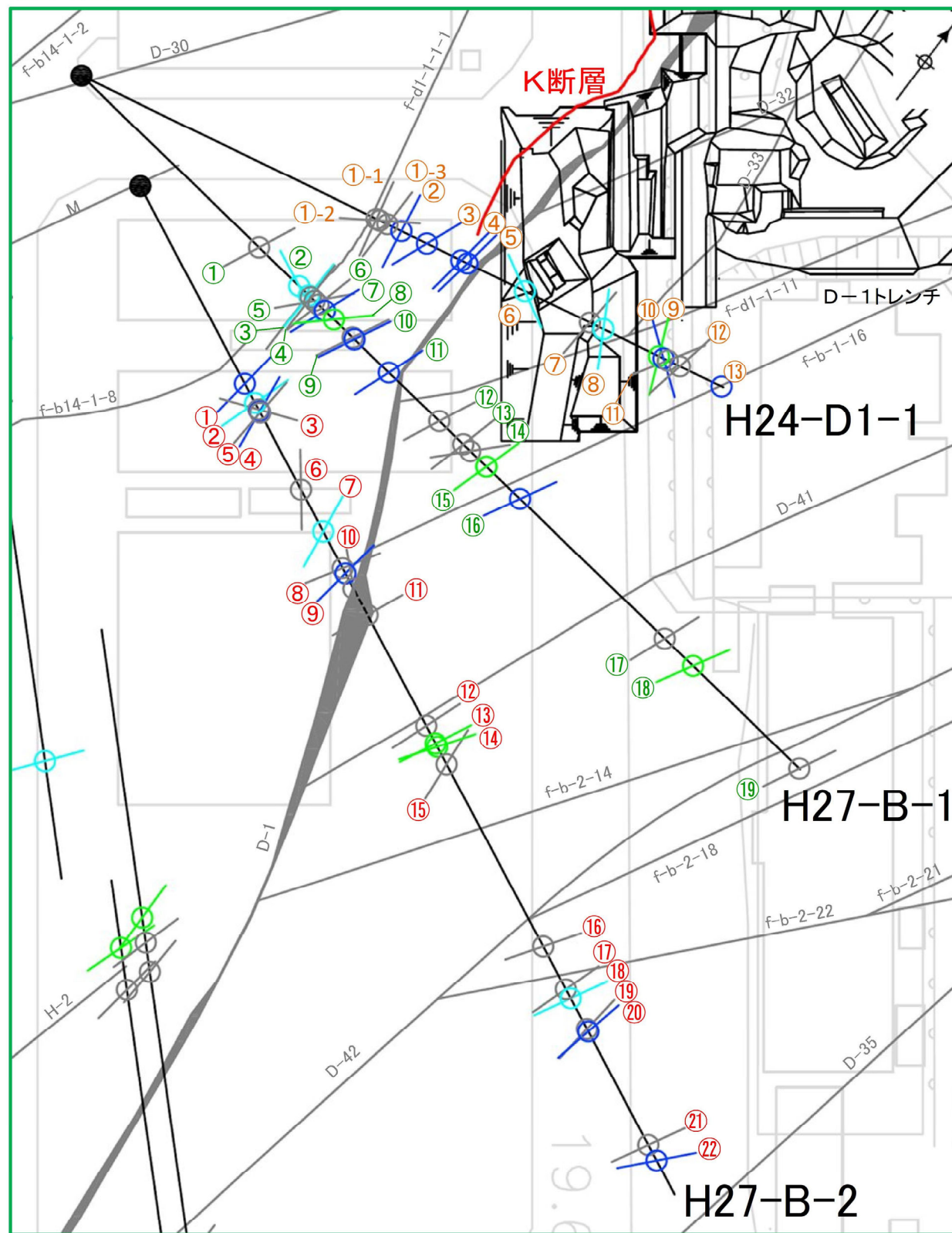
a a' : 断面位置

凡例	
●	ボーリング孔
○	トレンチ
—	浦底断層 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
—	その他の破砕帯 (T.P. -15m)
○	カタクレーサイトからなる破砕部
○	断層ガウジを伴う破砕部 (正断層センス卓越)
○	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
○	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれセンス卓越)

拡大範囲及び断面位置図

第7.4.4.117図(1) 敷地の破砕帯の連続性評価基準に基づくK断層の連続性評価 (拡大範囲及び断面位置図)

拡大範囲1

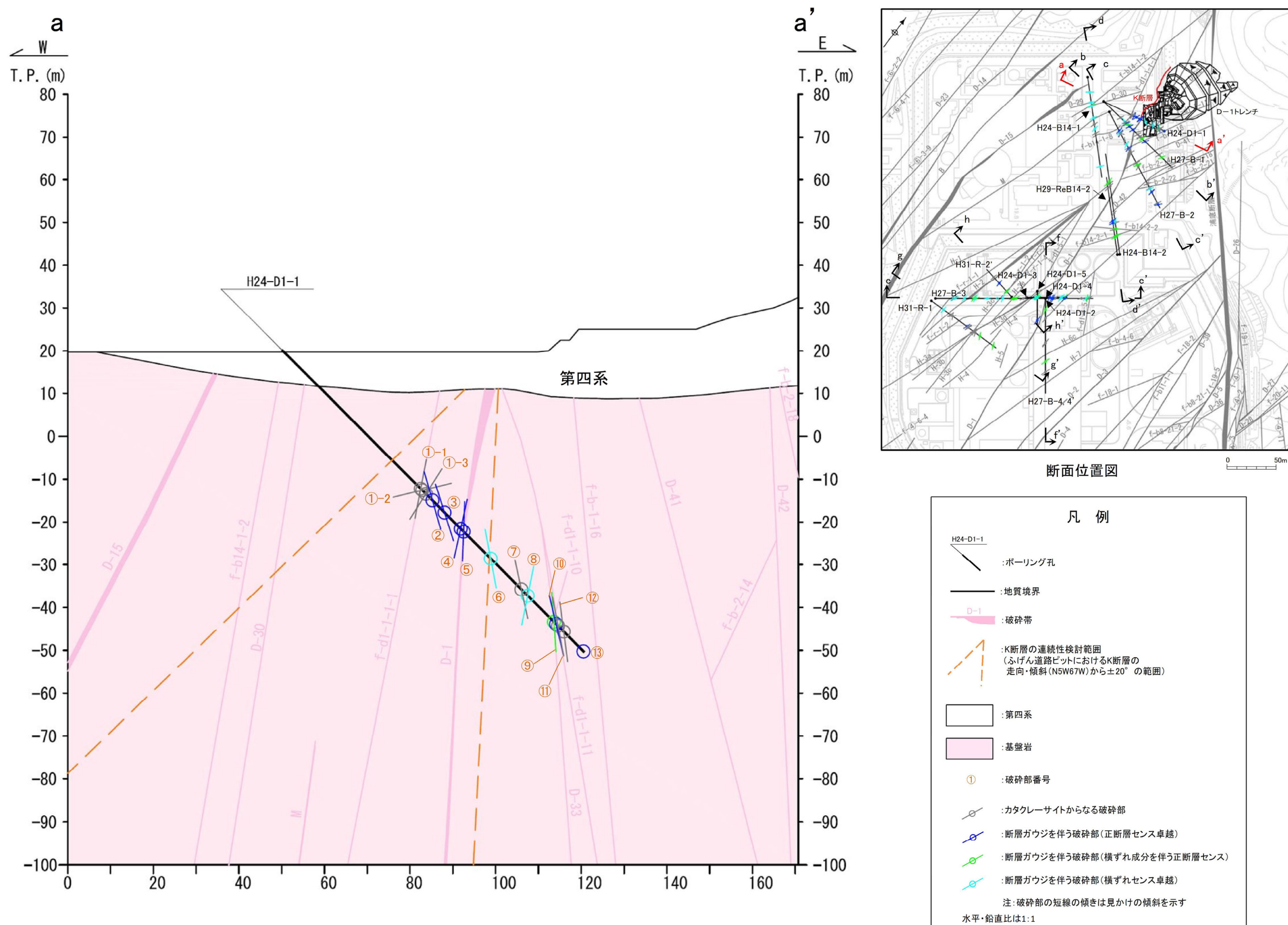


平面拡大範囲図

- ①: 破砕部番号 (H24-D1-1孔)
- ①: 破砕部番号 (H27-B-1孔)
- ①: 破砕部番号 (H27-B-2孔)

凡例	
●	ボーリング孔
—	破砕帯 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
↗	カタクレーサイトからなる破砕部
↘	断層ガウジを伴う破砕部 (正断層センス卓越)
↖	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
↙	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれセンス卓越)

• K断層の確認地点の最南部に当たるふげん道路ピットに隣接するH24-D1-1孔のうち、敷地の破砕帯の連続性評価基準に基づく検討範囲にある破砕部との連続性を検討した。幾何学的位置関係、走向・傾斜の類似性に加え、最新活動で形成された破砕部の性状（断層ガウジ又は断層角礫の有無、明瞭なせん断構造・変形構造の有無、条線方向、最新活動ゾーンの変位センス）の類似性等の複数の観点から対比を行った。



第7.4.4.117図(3) 敷地の破砕帯の連続性評価基準に基づくK断層の連続性評価 (a-a' 断面)

・ H24-D1-1孔の破碎部のうち敷地の破碎帯の連続性評価基準に基づく範囲内に位置する破碎部は、K断層の性状とは類似していないことから、K断層と連続しないものと判断した。

連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性 検討範囲	断面図上 の番号	破碎帯範囲		走向	比較対象との 走向の差 (°)	傾斜	比較対象との 傾斜の差 (°)	最新活動で形成された破碎部の性状				最新活動以前に 形成された 破碎部の性状等 注) 1	連続性 検討結果	破碎帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・ 断層角礫 の有無	明瞭な せん断構造・ 変形構造 の有無	条線	変位センス N：正断層 RL：右横ずれ R：逆断層 LL：左横ずれ			
				(m)	(m)											
ふげん道路ピット		-		EL+14.8m		N5W		67W		有	有	注) 2	R		K断層	
-	H24-D1-1	範囲内	①-1	45.91	45.94	N12W	7	79W	12	無	-	37L	N,LL		×	f-d1-1-1-1
			①-2	46.30	46.45	N57E	62	33NW	34	無	-	81R	N		×	
			①-3	47.64	47.75	N1E	6	58W	9	無	-	30R	N,LL		×	
			②	49.20	49.91	N9W	4	74E	39	有	無	90	N		×	
			③	53.77	54.54	N22E	27	75E	38	有	無	75R	N		×	
			④*	58.96	59.30	N8E	13	78W	11	有	有	-	N		×	
			⑤**	60.12	60.15	N9E	14	88W	21	有	有	80L	N		×	D-1

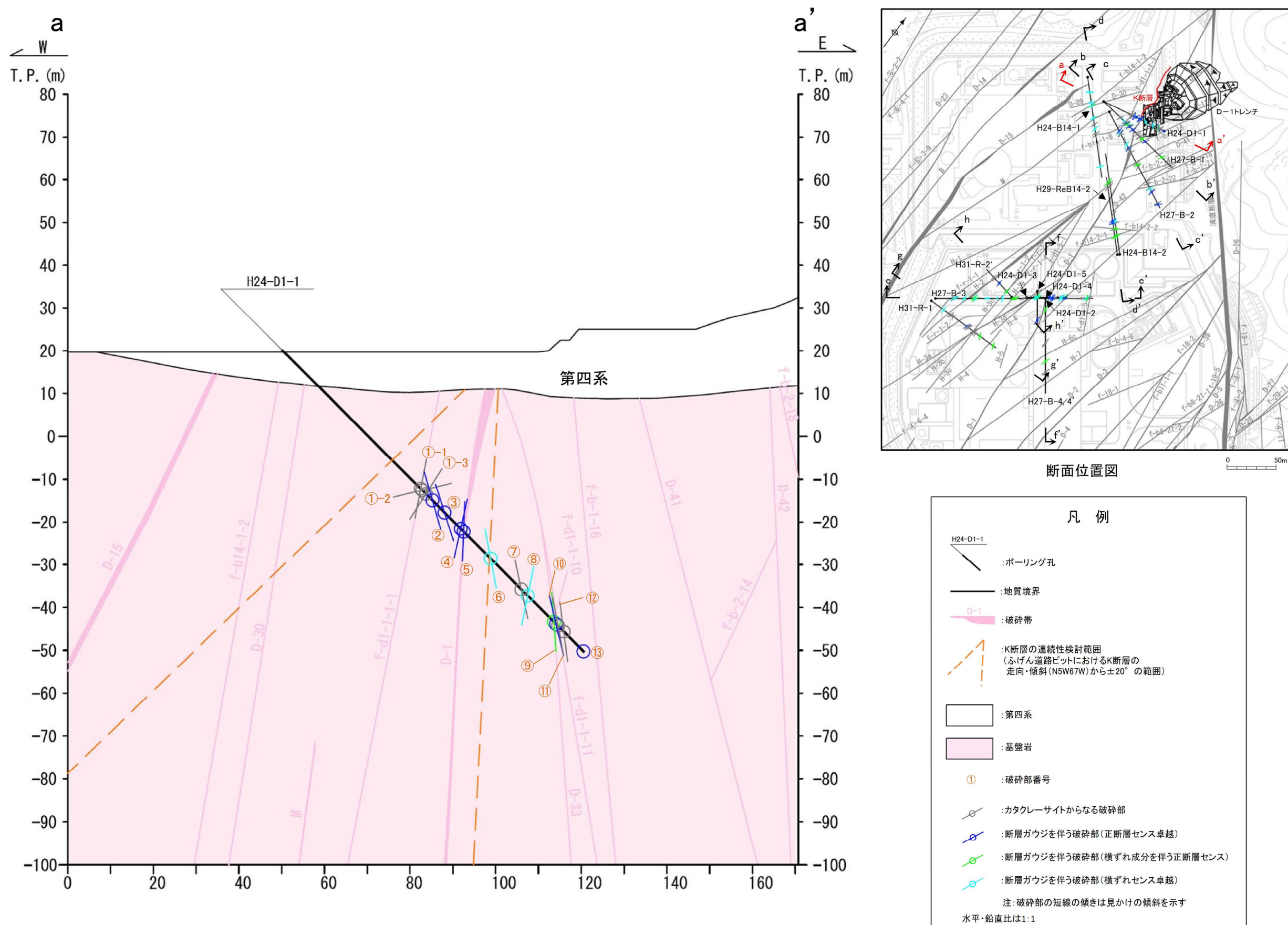
注)1 最新活動以前に形成された破碎部の性状等について起点破碎部と対象破碎部の性状が類似しているかを確認する。
 注)2 ふげん道路ピットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。
 -: データを取得していない箇所

- : 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内のもの
- : 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内のもの
- : 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内の可能性のあるもの
- : 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
- : 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
- : 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの
- : 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの
- : 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状等が類似するもの

* 深度58.96~59.30mの破碎部について、H24-D1-1孔のボーリング柱状図には、ボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として「破碎部(K断層)」と記載されている。
 一方、当該破碎部はN-S走向、西傾斜、ガウジを伴う正断層センスであり、最新活動で形成された破碎部の性状の類似性からK断層ではない(連続しない)と判断した。

** 深度60.12~60.15mの破碎部について、H24-D1-1孔のボーリング柱状図には、ボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として「破碎部(G断層)」と記載されている。
 一方、当該破碎部はN-S走向、西傾斜、ガウジを伴う正断層センスであり、最新活動で形成された破碎部の性状や最新活動以前に形成された破碎部の性状等の類似性からD-1破碎帯であると判断した。

• K断層の走向が局所的に変化している状況を踏まえ、H24-D1-1孔のうち、敷地の破砕帯の連続性評価基準に基づく検討範囲外の破砕部との連続性についても確認した。



第7.4.4.118図(1) K断層と敷地の破砕帯の連続性評価基準に基づく検討範囲外の破砕部との連続性の確認 (a-a' 断面)

・ H24-D1-1孔で確認された全ての破碎部は、K断層の性状とは類似していないことから、K断層と連続しないことを確認した。

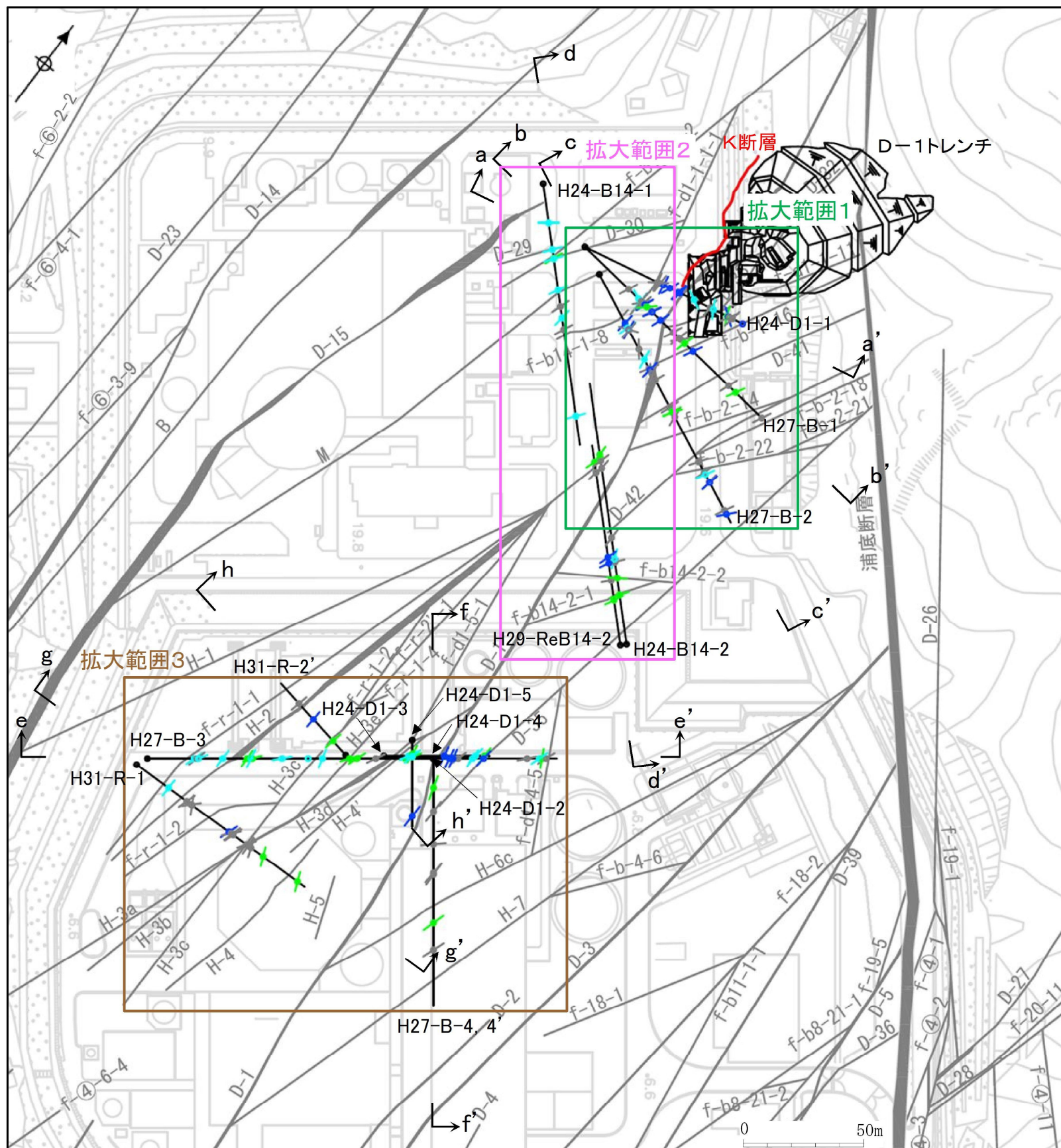
連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	断面図上の番号	破碎帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破碎部の性状				最新活動以前に形成された破碎部の性状等注)1	連続性検討結果	破碎帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・断層角礫の有無	明瞭なせん断構造・変形構造の有無	条線	変位センス N：正断層 RL：右横ずれ R：逆断層 LL：左横ずれ			
				(m)	(m)											
ふげん道路ピット		-		EL+14.8m		N5W		67W		有	有	注)2	R			K断層
-	H24-D1-1	範囲外	⑥	68.84	69.20	N61W	56	83N	30	有	無	7R	LL		×	
			⑦	78.77	79.19	N4E	9	78E	35	無	-	45R	R,RL		×	
			⑧	81.20	81.42	N29W	24	79W	12	有	無	0	LL		×	
			⑨	89.91	89.95	N23W	18	86E	27	有	無	33L	N,RL		×	D-33
			⑩	90.26	90.84	N53W	48	80NE	33	有	有	75L	N		×	f-d1-1-10
			⑪	91.26	91.52	N31E	36	83SE	30	無	-	75L	N		×	f-d1-1-11
			⑫	93.12	93.24	N11E	16	83E	30	無	-	85L	N		×	
			⑬	99.68	99.71	NS注)3	5	89W注)3	22	有	無	90注)3	N注)3		×	

注)1 最新活動以前に形成された破碎部の性状等について起点破碎部と対象破碎部の性状が類似しているかを確認する。
 注)2 ふげん道路ピットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。
 注)3 破碎部の走向・傾斜をBHTV画像等から取得できなかったことから、重要施設方向に延長する破碎部(NS89W)と仮定した場合のデータを用いて連続性評価を行う。
 -: データを取得していない箇所

	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内のもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内のもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内の可能性のあるもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状等が類似するもの

起点破碎部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破碎部について検討を実施するため、上記囲み内の条件は適用しない。



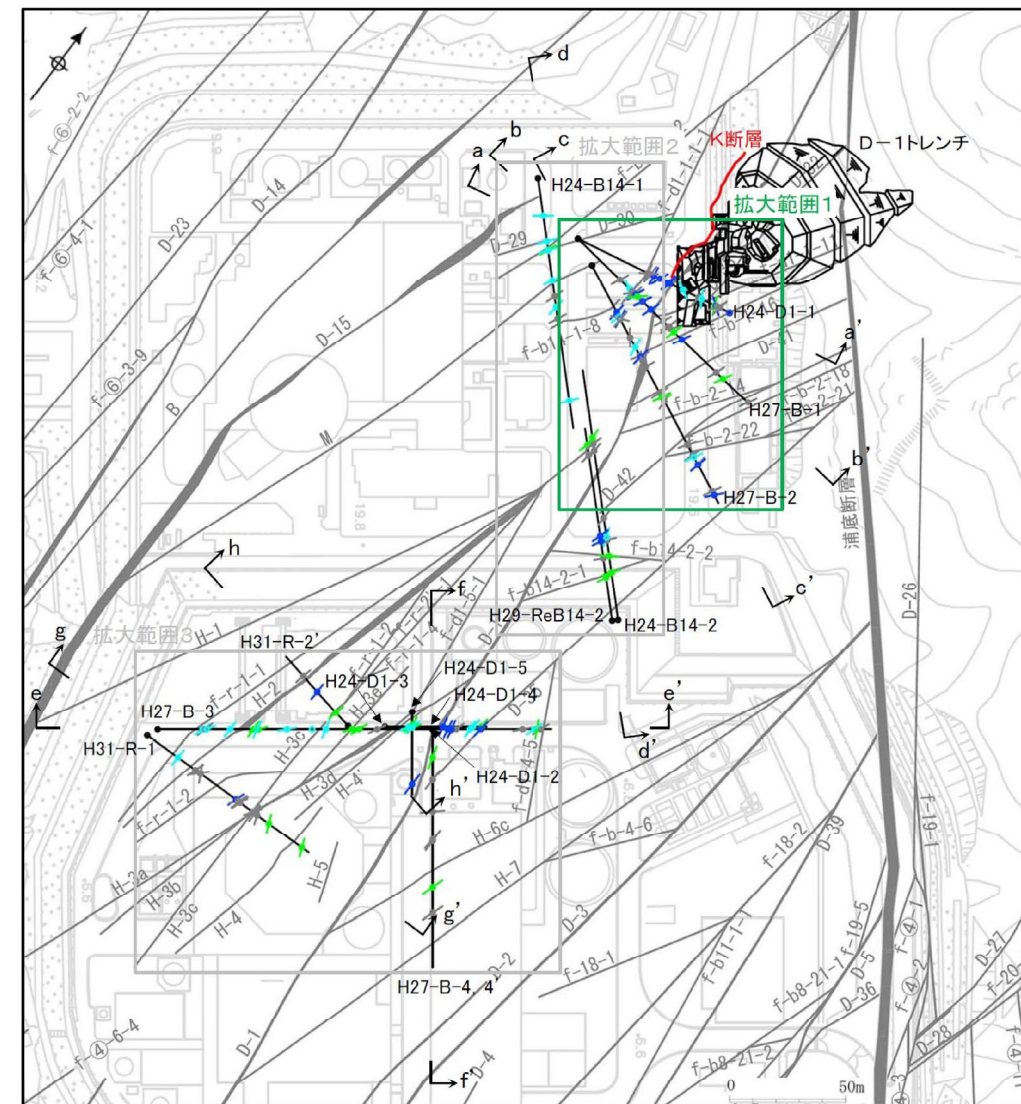
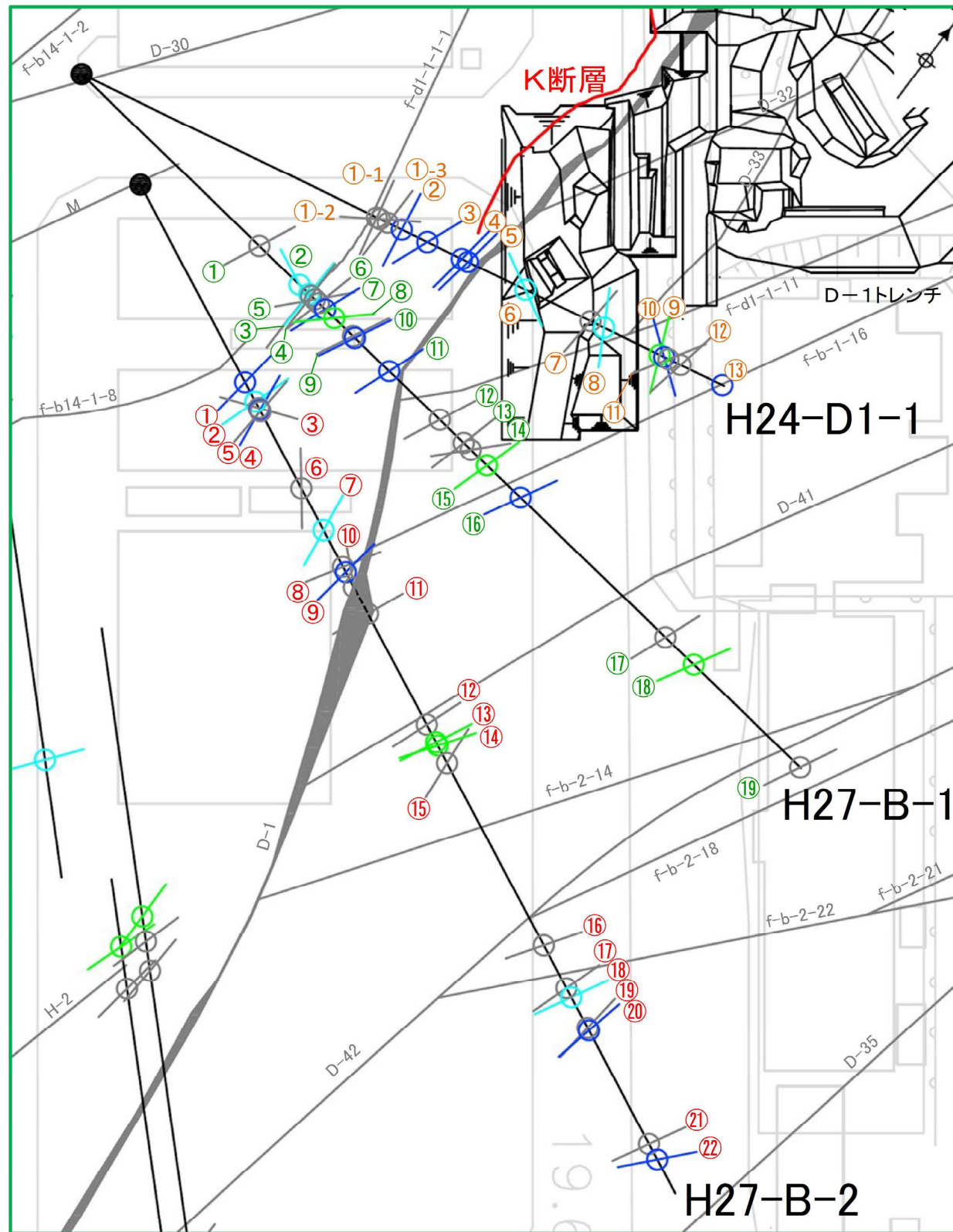
a a' : 断面位置

凡例	
●	ボーリング孔
○	トレンチ
—	浦底断層 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
—	その他の破砕帯 (T.P. -15m)
○	カタクレーサイトからなる破砕部
○	断層ガウジを伴う破砕部 (正断層センス卓越)
○	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
○	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれセンス卓越)

拡大範囲及び断面位置図

第7.4.4.119図(1) K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破砕部との連続性の確認 (拡大範囲及び断面位置図)

拡大範囲1



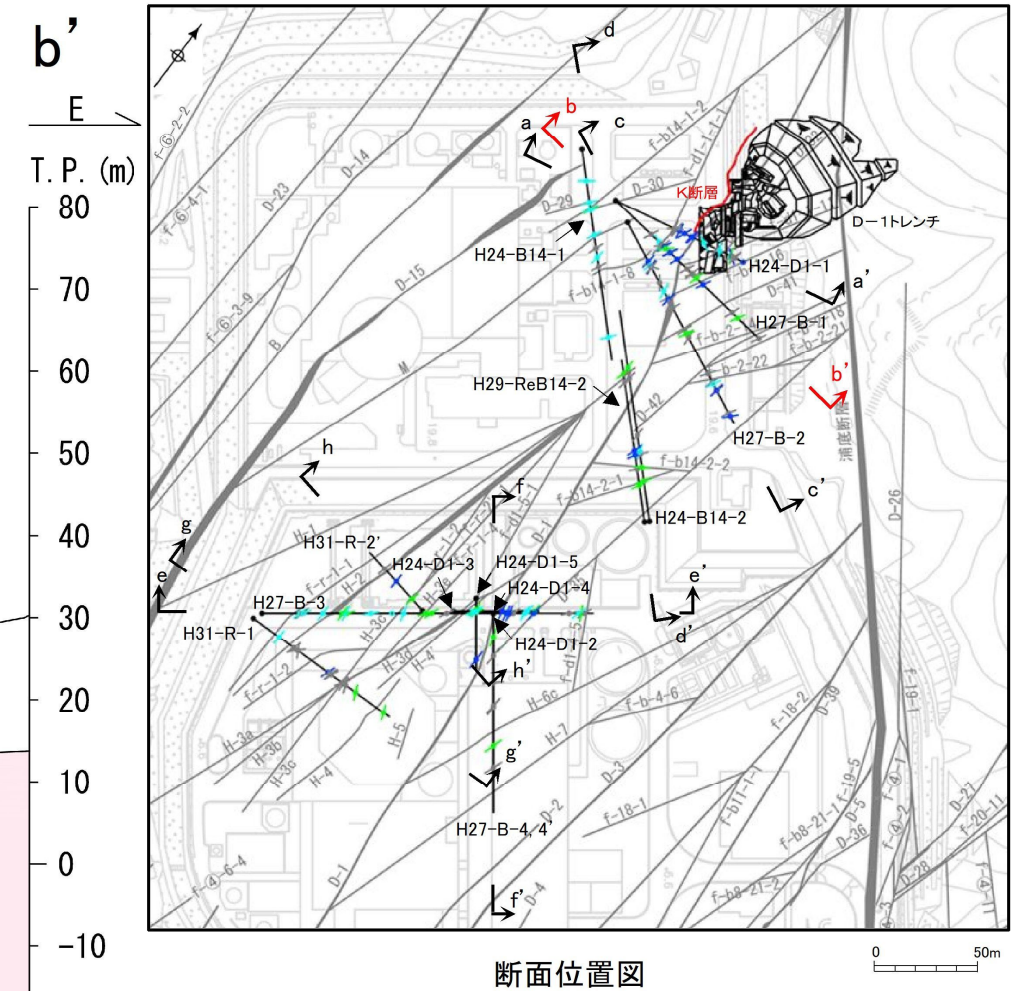
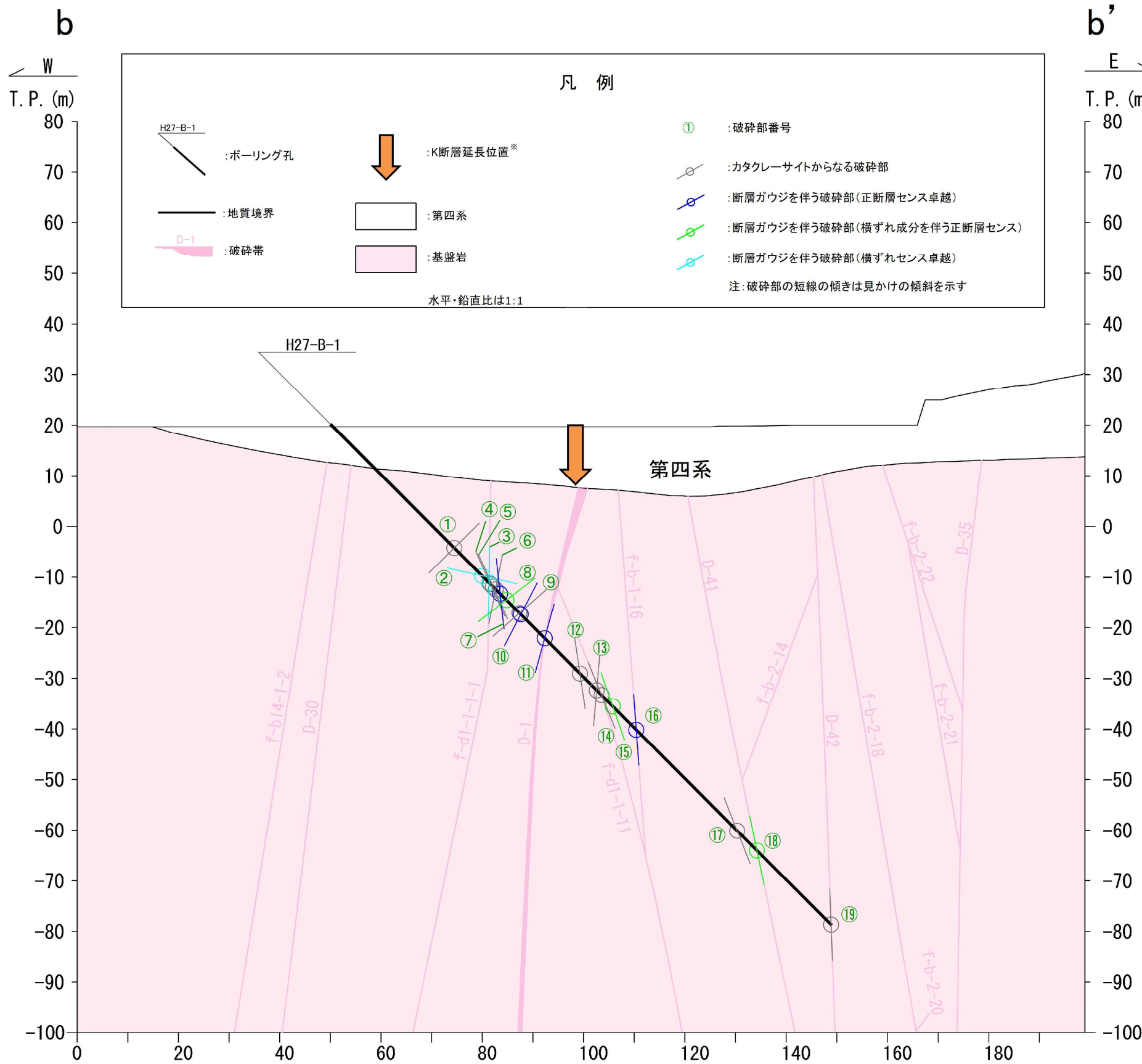
平面拡大範囲図

- ①: 破砕部番号 (H24-D1-1孔)
- ①: 破砕部番号 (H27-B-1孔)
- ①: 破砕部番号 (H27-B-2孔)

凡例	
●	ボーリング孔
—	破砕帯 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
↗	カタクレーサイトからなる破砕部
↘	断層ガウジを伴う破砕部 (正断層センス卓越)
↖	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
↙	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれセンス卓越)

第7.4.4.119図(2) K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破砕部との連続性の確認 (拡大範囲1)

・ H24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破碎部について、併せて連続性確認を実施した。



※: K断層延長位置は、以下に示す方法により求めた走向・傾斜を用いた。
 (走向は、T.P.-15mにおけるK断層の端部を結んだ線(方向N7W)とした。
 傾斜は、K断層とほぼ直交するD-1トレンチの断面C-C'におけるK断層の上端と下端を結んだ線の傾き(78W)とした。)

第7. 4. 4. 119図(3) K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破碎部との連続性の確認 (b-b' 断面)

・ K断層の性状と類似する破砕部はなかったことから、K断層はこれらの南方にあるボーリング調査の範囲には連続しないことを確認した。

連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	断面図上の番号	破砕帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破砕部の性状				最新活動以前に形成された破砕部の性状等注) 1	連続性検討結果	破砕帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・断層角礫の有無	明瞭なせん断構造・変形構造の有無	条線	変位センス N：正断層 RL：右横ずれ R：逆断層 LL：左横ずれ			
				(m)	(m)											
ふげん道路ピット		-		EL+14.8m		N5W		67W		有	有	注) 2	R			K断層
-	H27-B-1	-	①	34.54	34.59	N25E	30	46W	21	無	-	30L	R,LL		×	
			②	42.41	42.49	N65W	60	36N	77	有	無	14R	RL		×	
			③	44.24	44.53	N1E	6	89W	22	有	無	0	LL		×	f-d1-1-1-1
			④	44.53	44.83	NS	5	66E	47	無	-	30L	R,LL		×	
			⑤	45.36	45.39	N43E	48	70SE	43	無	-	40L	N,RL		×	
			⑥	46.12	46.17	N14E	19	79W	12	無	-	22L	RL		×	
			⑦	47.40	47.51	N21E	26	84E	29	有	無	70R	N		×	
			⑧	49.17	49.22	N47E	52	45NW	22	有	無	30L	N,RL		×	
			⑨	52.72	52.81	N27E	32	43W	24	無	-	72R	R		×	
			⑩	53.17	53.22	N27E	32	64W	3	有	無	90	N		×	
			⑪*	59.82	59.85	N20E	25	75W	8	有	有	80R	N		×	D-1
			⑫	69.70	69.73	N25E	30	82E	31	無	-	20L	RL		×	
			⑬	74.36	74.50	N15E	20	85W	18	無	-	54R	N,LL		×	
			⑭	75.57	76.00	N44E	49	72E	41	無	-	88R	N		×	f-d1-1-11
			⑮	78.72	78.87	N17E	22	71E	42	有	無	30L	N,RL		×	
			⑯	85.38	85.41	N28E	33	86E	27	有	有	90	N		×	f-b-1-16
			⑰	113.51	113.60	N21E	26	69E	44	無	-	30L	N,RL		×	
			⑱	118.94	119.12	N29E	34	79E	34	有	有	30L	N,RL		×	D-41
			⑲	139.82	139.88	N27E	32	88E	25	無	-	35L	N,RL		×	D-42

注) 1 最新活動以前に形成された破砕部の性状等について起点破砕部と対象破砕部の性状が類似しているかを確認する。

注) 2 ふげん道路ピットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。

—: データを取得していない箇所

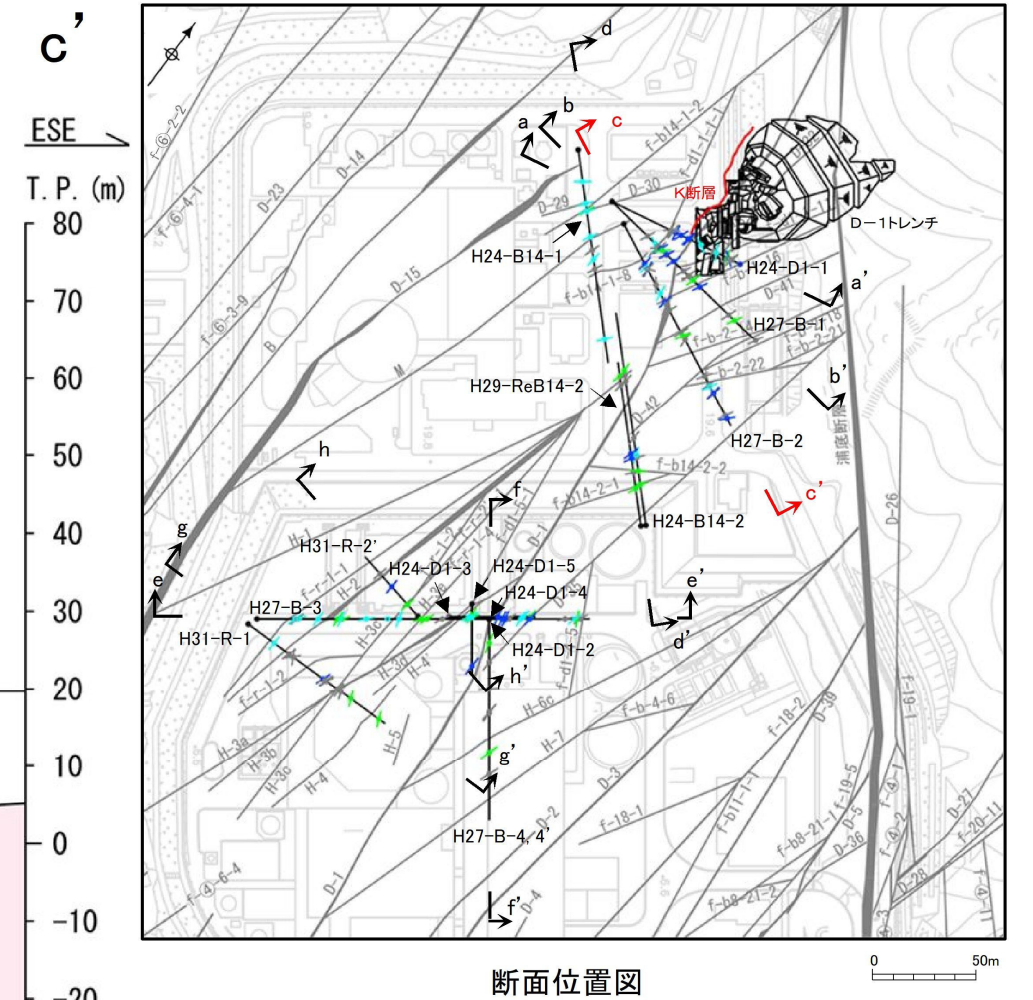
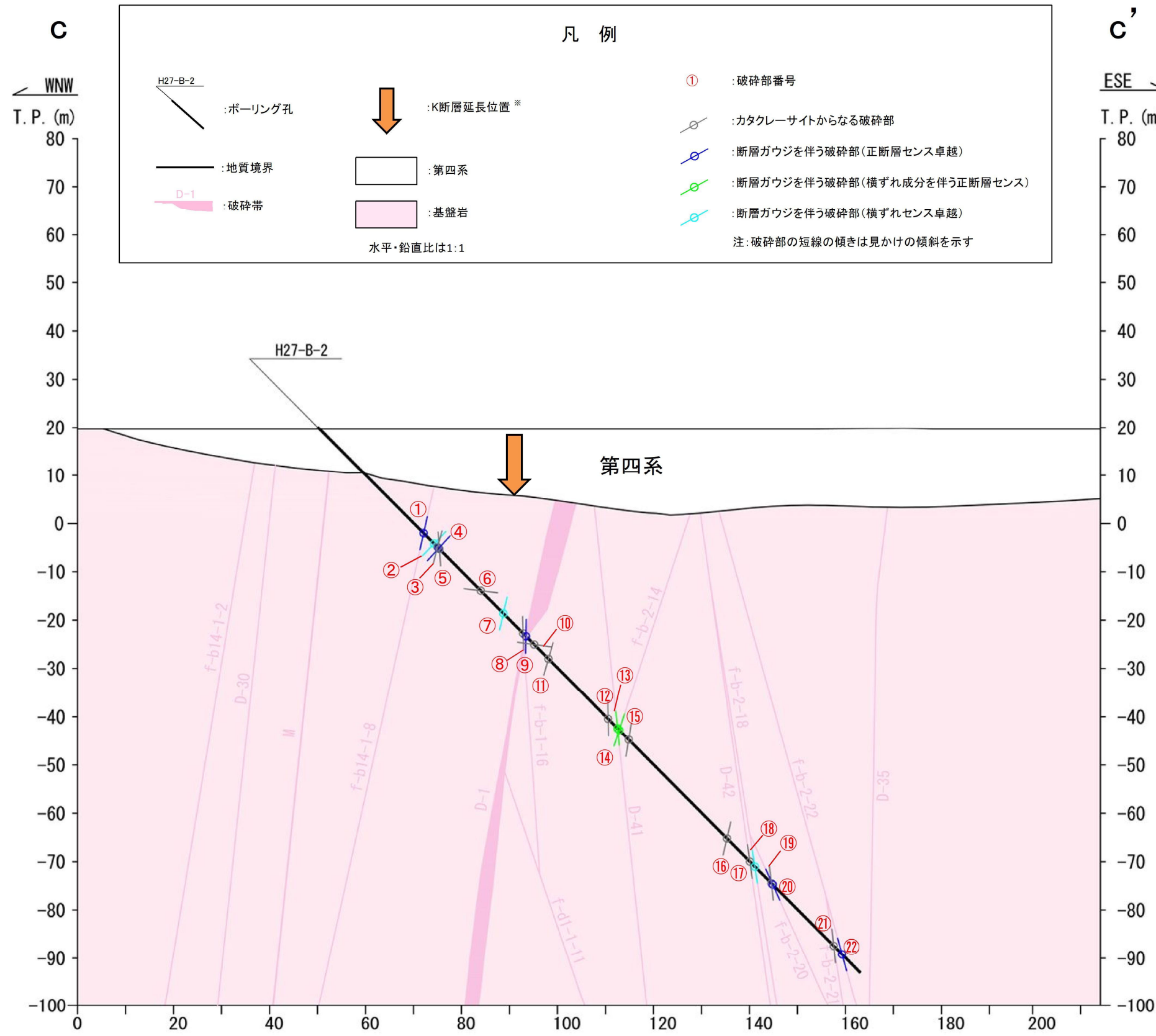
	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内のもの
	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内のもの
	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内の可能性のあるもの
	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの
	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの
	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状等が類似するもの

起点破砕部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破砕部について検討を実施するため、上記囲み内の条件は適用しない。

* 深度59.82~59.85mの破砕部について、H27-B-1孔のボーリング柱状図には、ボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として「破砕部(D-1)」と記載されている。

一方、当該破砕部はN-S走向、西傾斜、ガウジを伴う正断層センスであり、最新活動で形成された破砕部の性状や最新活動以前に形成された破砕部の性状等の類似性からD-1破砕帯であると評価した。

第7.4.4.119図(4) K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破砕部との連続性の確認 (H27-B-1孔の破砕部の性状及び連続性の確認)



※: K断層延長位置は、以下に示す方法により求めた走向・傾斜を用いた。
 (走向は、T.P.-15mにおけるK断層の端部を結んだ線の方角(N7W)とした。
 傾斜は、K断層とほぼ直交するD-1トレンチの断面C-C'におけるK断層の上端と下端を結んだ線の傾き(78W)とした。)

第7.4.4.119図(5) K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破砕部との連続性の確認 (c-c' 断面)

連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	断面図上の番号	破砕帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破砕部の性状				最新活動以前に形成された破砕部の性状等注)1	連続性検討結果	破砕帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・断層角礫の有無	明瞭なせん断構造・変形構造の有無	条線	変位センス N:正断層 RL:右横ずれ R:逆断層 LL:左横ずれ			
				(m)	(m)											
ふげん道路ピット		-		EL+14.8m		N5W		67W		有	有	注)2	R			K断層
-	H27-B-2	-	①	31.15	31.66	N7E	12	78W	11	有	無	80L	N		×	
			②	34.37	34.48	N18E	23	46W	21	有	無	0	LL		×	
			③	35.36	35.46	N69E	74	79N	34	無	-	10R	RL		×	
			④	35.68	35.73	N7W	2	52W	15	有	無	70R	N		×	
			⑤	35.92	35.95	N4E	9	86E	27	無	-	50L	N,RL		×	
			⑥	48.08	48.12	N38W	33	15NE	98	無	-	0	LL		×	
			⑦	54.72	54.77	N8W	3	79W	12	有	無	0	LL		×	
			⑧	60.26	60.69	N31E	36	88SE	25	無	-	75L	N		×	
			⑨*	61.29	61.69	N8E	13	89W	22	有	有	90	N		×	D-1
			⑩	63.75	63.85	N47W	42	24NE	89	無	-	36L	R,LL		×	
			⑪	68.02	68.06	N23E	28	74W	7	無	-	90	N		×	
			⑫	85.58	85.76	N20E	25	89E	24	無	-	15L	RL		×	
			⑬	88.38	88.43	N26E	31	84E	29	有	無	30L	N,RL		×	D-41
			⑭	88.88	88.94	N35E	40	72NW	5	有	有	25L	N,RL		×	f-b-2-14
			⑮	91.69	91.76	N5W	0	82W	15	無	-	30R	R,RL		×	
			⑯	120.63	120.65	N34E	39	77NW	10	無	-	30L	R,LL		×	
			⑰	127.41	127.48	N18E	23	82E	31	無	-	20L	RL		×	D-42
			⑱	128.82	128.97	N28E	33	81E	32	有	無	20R	RL		×	f-b-2-18
			⑲	133.75	133.92	N6E	11	84E	29	無	-	22L	RL		×	
			⑳	134.15	134.23	N12E	17	66E	47	有	有	82L	N		×	f-b-2-20
			㉑	152.10	152.15	N28E	33	84E	29	無	-	30L	R,LL		×	f-b-2-21
			㉒	154.53	154.71	N42E	47	75SE	38	有	有	75R	N		×	f-b-2-22

注)1 最新活動以前に形成された破砕部の性状等について起点破砕部と対象破砕部の性状が類似しているかを確認する。

注)2 ふげん道路ピットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。

緑	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内のもの	かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内のもの	—: データを取得していない箇所
黄	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内の可能性のあるもの		
白	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの		
淡青	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの		
青	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの		
濃青	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの		
水色	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状等が類似するもの		

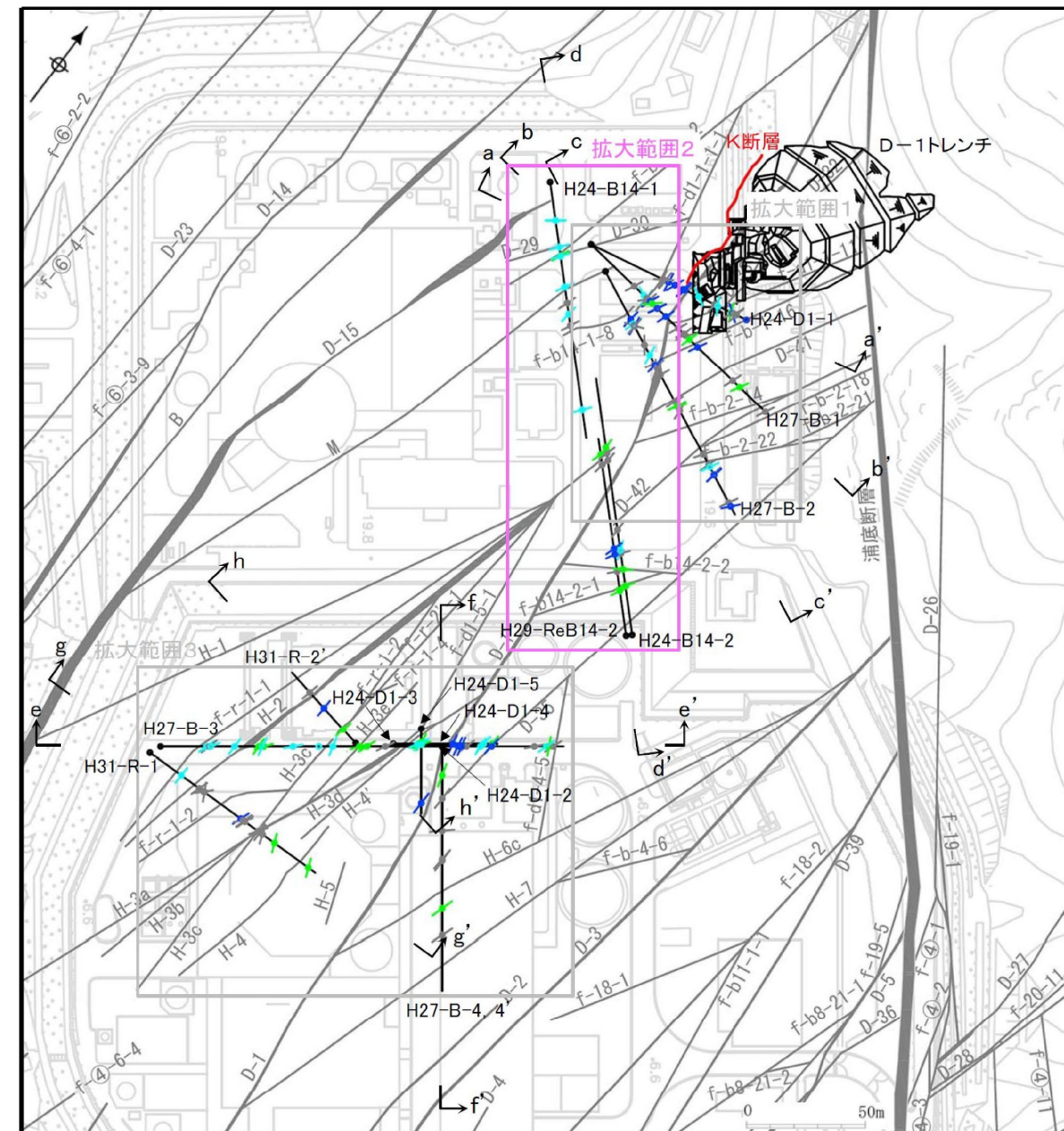
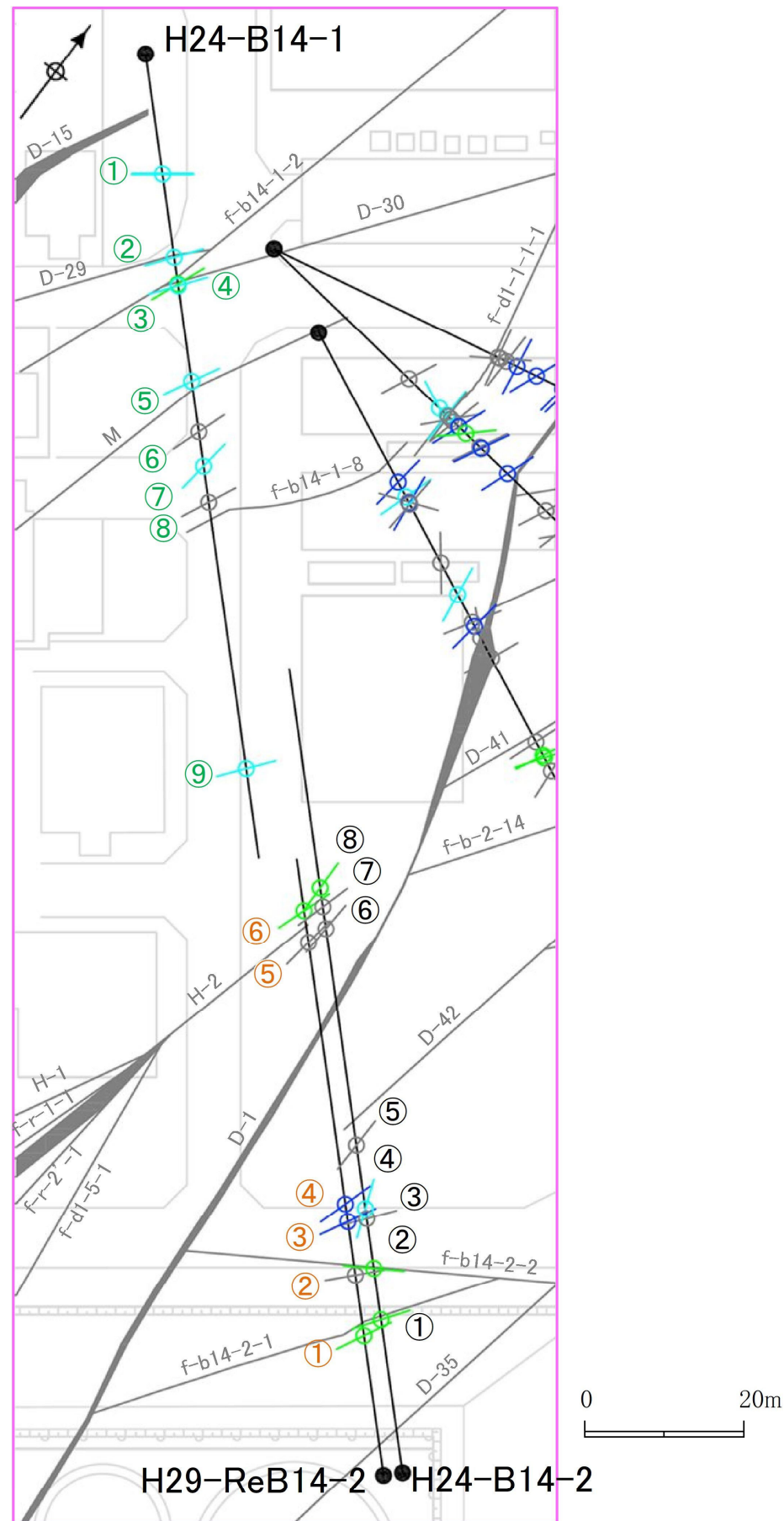
起点破砕部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破砕部について検討を実施するため、上記囲み内の条件は適用しない。

* 深度61.29~61.69mの破砕部について、H27-B-2孔のボーリング柱状図には、ボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として「破砕部(D-1)」と記載されている。

一方、当該破砕部はN-S走向、西傾斜、ガウジを伴う正断層センスであり、最新活動で形成された破砕部の性状や最新活動以前に形成された破砕部の性状等の類似性からD-1破砕帯であると評価した。

第7.4.4.119図(6) K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破砕部との連続性の確認 (H27-B-2孔の破砕部の性状及び連続性の確認)

拡大範囲2

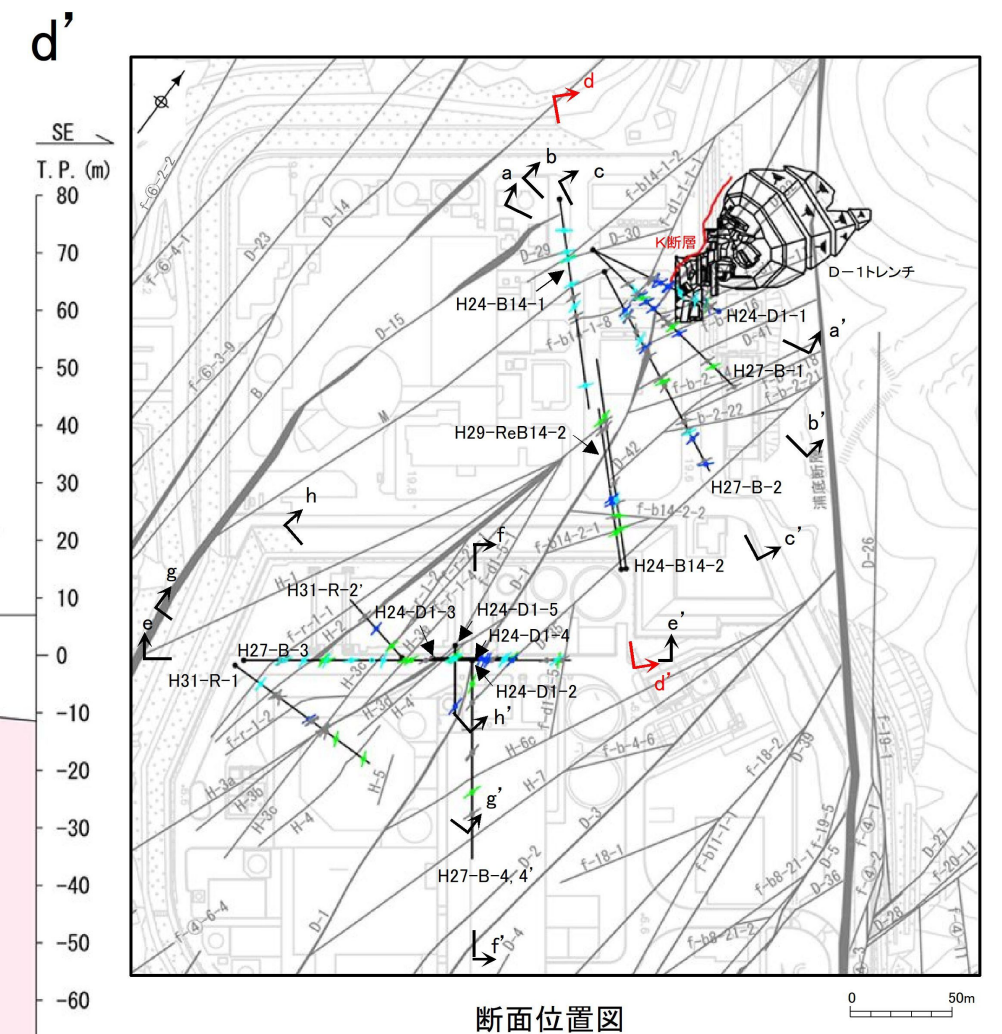
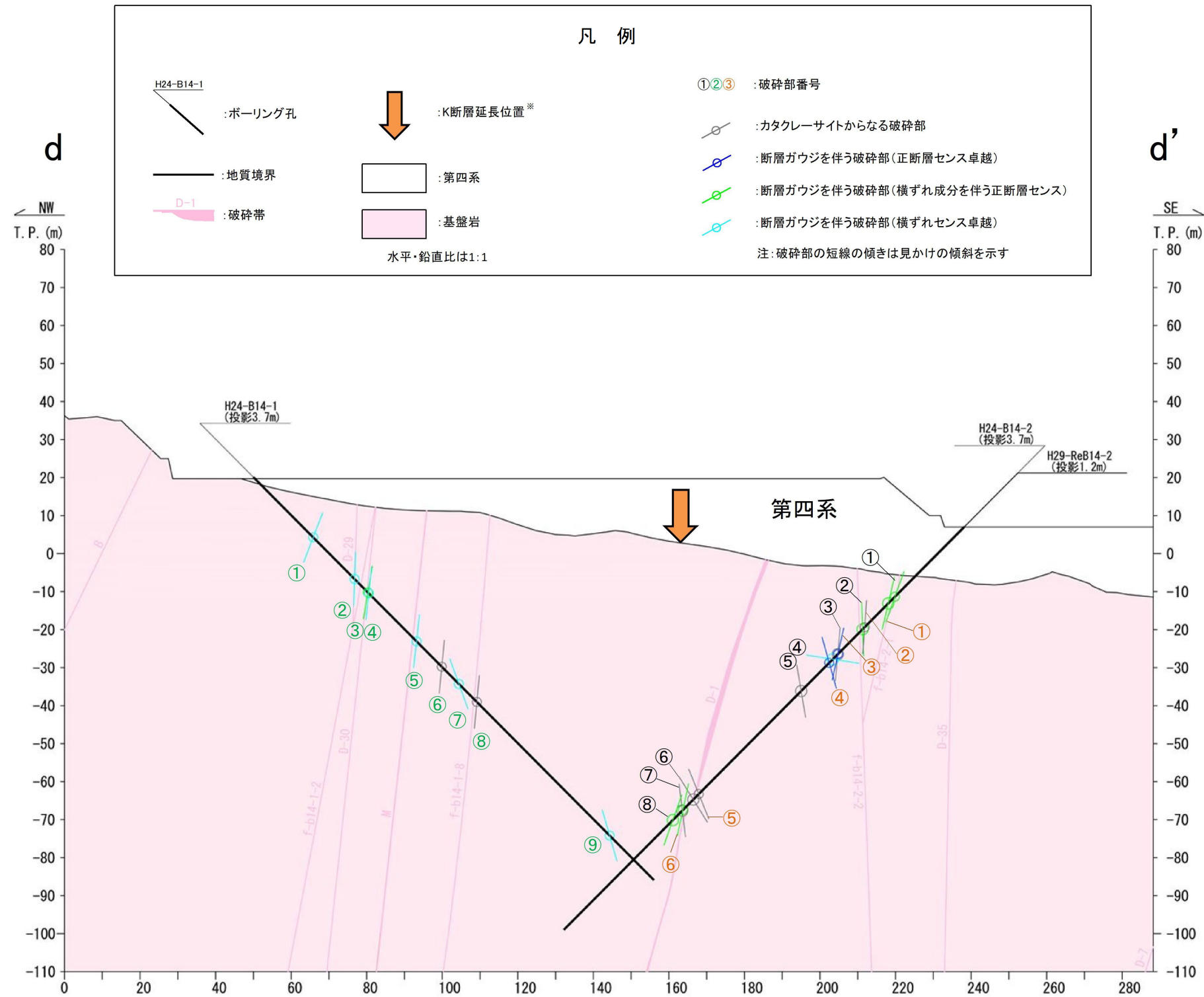


平面拡大範囲図

- ①: 破砕部番号 (H24-B14-2孔)
- ①: 破砕部番号 (H24-B14-1孔)
- ①: 破砕部番号 (H29-ReB14-2孔)

凡例	
●	ボーリング孔
—	破砕帯 (T.P. -15m)
↘	カタクレーサイトからなる破砕部
↘	断層ガウジを伴う破砕部 (正断層センス卓越)
↘	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
↘	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれセンス卓越)

第7.4.4.119図(7) K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破砕部との連続性の確認 (拡大範囲2)



※: K断層延長位置は、以下に示す方法により求めた走向・傾斜を用いた。
 (走向は、T.P.-15mにおけるK断層の端部を結んだ線(方向N7W)とした。
 傾斜は、K断層とほぼ直交するD-1トレンチの断面C-C'におけるK断層の上端と下端を結んだ線の傾き(78W)とした。)

第7. 4. 4. 119図(8) K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破砕部との連続性の確認 (d-d' 断面)

連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	断面図上の番号	破碎帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破碎部の性状				最新活動以前に形成された破碎部の性状等 注) 1	連続性検討結果	破碎帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・断層角礫の有無	明瞭なせん断構造・変形構造の有無	条線	変位センス N:正断層 RL:右横ずれ R:逆断層 LL:左横ずれ			
				(m)	(m)											
ふげん道路ピット		-		EL+14.8m		N5W		67W		有	有	注) 2	R		K断層	
-	H24-B14-2	-	①	28.50	28.66	N35E	40	77NW	10	有	有	50R	N,LL	×	f-b14-2-1	
			②	38.10	38.27	N58E	63	88SE	25	有	有	57L	N,RL	×	f-b14-2-2	
			③	47.37	47.40	N38E	43	85NW	18	無	-	40R	R,RL	×		
			④	49.24	49.55	N21W	16	21E	92	有	有	17R	RL	×		
			⑤	60.85	61.12	N1E	6	83E	30	無	-	72R	N	×	D-42	
			⑥	101.47	101.52	N3E	8	65E	48	無	-	20R	RL	×		
			⑦	105.54	105.61	N16E	21	84E	29	無	-	12L	LL	×	D-41	
			⑧*	109.16	109.46	N1W	4	76W	9	有	有	-	N,RL	×	D-1	

注) 1 最新活動以前に形成された破碎部の性状等について起点破碎部と対象破碎部の性状が類似しているかを確認する。
 注) 2 ふげん道路ピットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。
 -: データを取得していない箇所

: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内のもの	
: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内のもの	
: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内の可能性のあるもの	
: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの	
: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの	
: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの	
: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの	
: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状等が類似するもの	

起点破碎部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破碎部について検討を実施するため、上記囲み内の条件は適用しない。

* 深度109.16~109.46mの破碎部について、H24-B14-2孔のボーリング柱状図には、ボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として「破碎部(D-1破碎帯)」と記載されている。
 一方、当該破碎部はN-S走向、西傾斜、ガウジを伴う右横ずれ正断層センスであり、最新活動で形成された破碎部の性状や最新活動以前に形成された破碎部の性状等の類似性からD-1破碎帯であると評価した。

連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	断面図上の番号	破碎帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破碎部の性状				最新活動以前に形成された破碎部の性状等注) 1	連続性検討結果	破碎帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・断層角礫の有無	明瞭なせん断構造・変形構造の有無	条線	変位センス N：正断層 RL：右横ずれ R：逆断層 LL：左横ずれ			
				(m)	(m)											
ふげん道路ピット		-		EL+14.8m		N5W		67W		有	有	注) 2	R		K断層	
-	H29-ReB14-2	-	①	26.00	26.20	N27E	32	71W	4	有	有	50R	N,LL		×	f-b14-2-1
			②	37.34	37.35	N43E	48	86NW	19	無	-	61L	N,RL		×	f-b14-2-2
			③	47.13	47.34	N28E	33	78W	11	有	無	89R	N		×	
			④	50.61	50.80	N17E	22	76E	37	有	無	83R	N		×	
			⑤	99.41	99.45	N8E	13	72E	41	無	-	76R	R		×	
			⑥	105.26	105.50	N19E	24	79W	12	有	有	55L	N,RL		×	D-1

注) 1 最新活動以前に形成された破碎部の性状等について起点破碎部と対象破碎部の性状が類似しているかを確認する。
 注) 2 ふげん道路ピットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。
 -: データを取得していない箇所

	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内のもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内のもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内の可能性のあるもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状等が類似するもの

起点破碎部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破碎部について検討を実施するため、上記囲み内の条件は適用しない。

連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	断面図上の番号	破碎帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破碎部の性状				最新活動以前に形成された破碎部の性状等 注) 1	連続性検討結果	破碎帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・断層角礫の有無	明瞭なせん断構造・変形構造の有無	条線	変位センス N:正断層 RL:右横ずれ R:逆断層 LL:左横ずれ			
				(m)	(m)											
ふげん道路ピット		-		EL+14.8m		N5W		67W		有	有	注) 2	R			K断層
-	H24-B14-1	-	①	21.63	22.57	N53E	58	69NW	2	有	無	2R	RL		×	
			②	37.86	37.91	N37E	42	88NW	21	有	無	20R	LL		×	D-29
			③	42.62	42.88	N22E	27	81W	14	有	無	60L(不明瞭)	N,RL		×	f-b14-1-2
			④	43.19	43.62	N37E	42	84W	17	有	無	12R	LL		×	D-30
			⑤	61.09	61.22	N28E	33	84W	17	有	無	18L	LL		×	M
			⑥	70.54	71.41	N19E	24	85W	18	無	-	40R	N,LL		×	
			⑦	76.94	77.03	N7E	12	74E	39	有	無	2L	RL		×	
			⑧	82.59	83.71	N25E	30	85W	18	無	-	60R	N,LL		×	f-b14-1-8
			⑨	133.38	134.77	N38E	43	74SE	39	有	無	22L	RL		×	

注) 1 最新活動以前に形成された破碎部の性状等について起点破碎部と対象破碎部の性状が類似しているかを確認する。

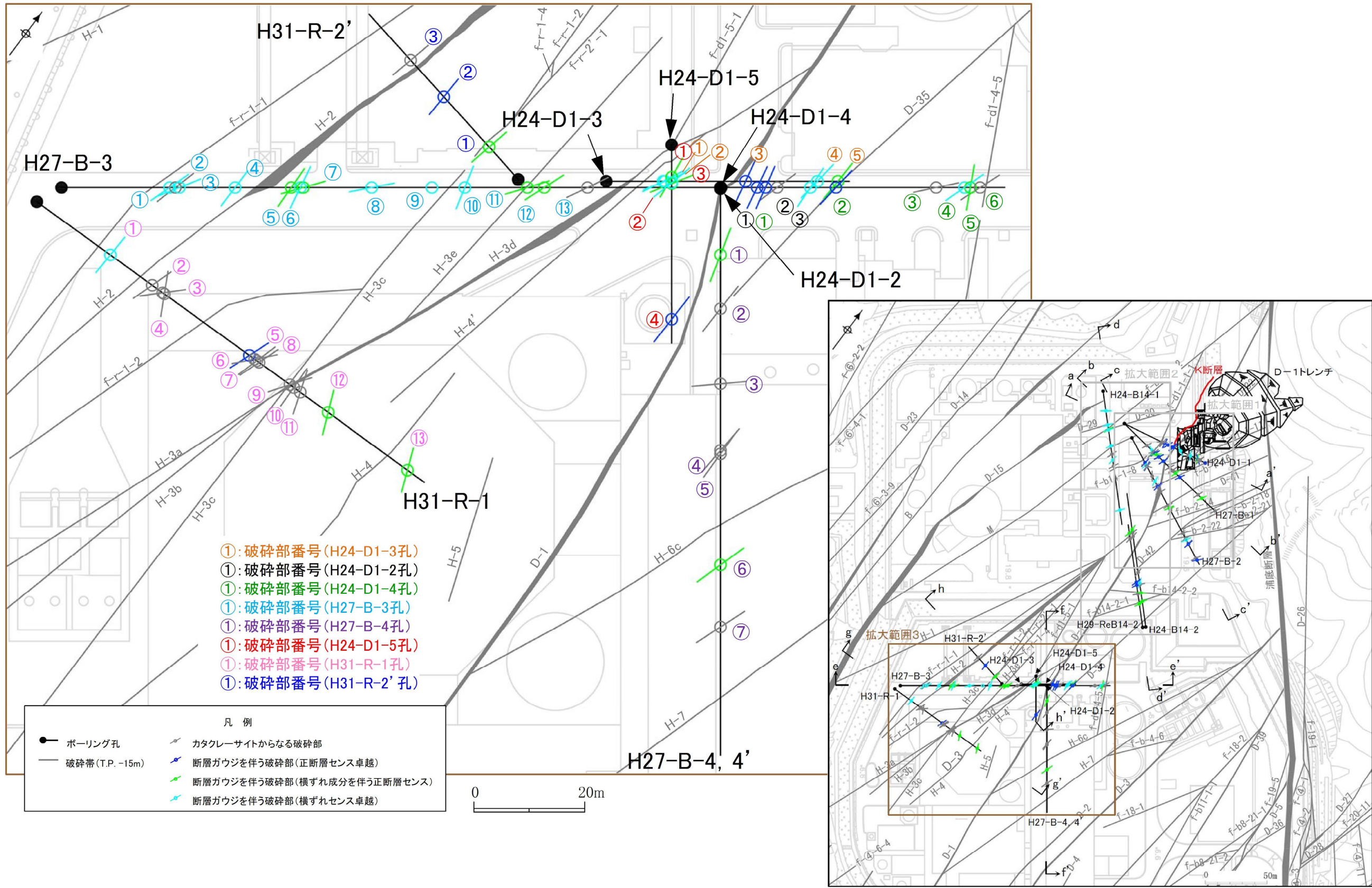
注) 2 ふげん道路ピットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。

—: データを取得していない箇所

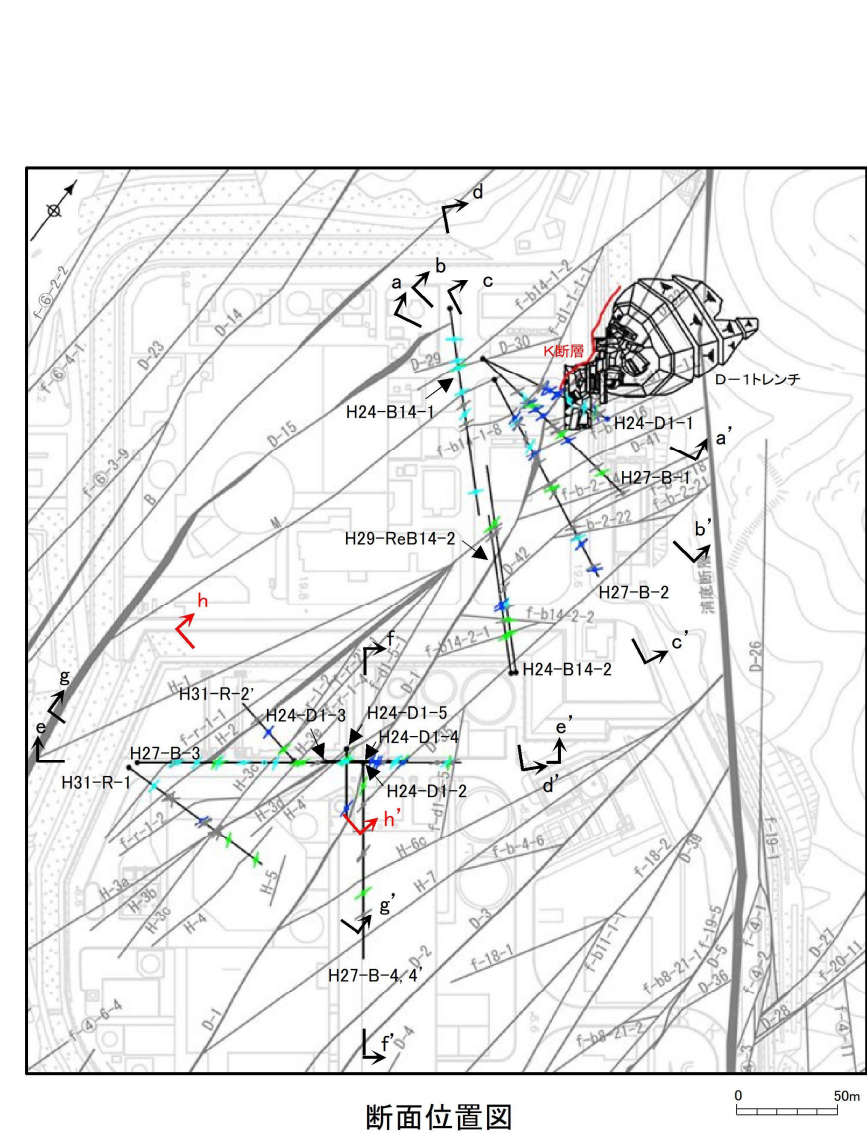
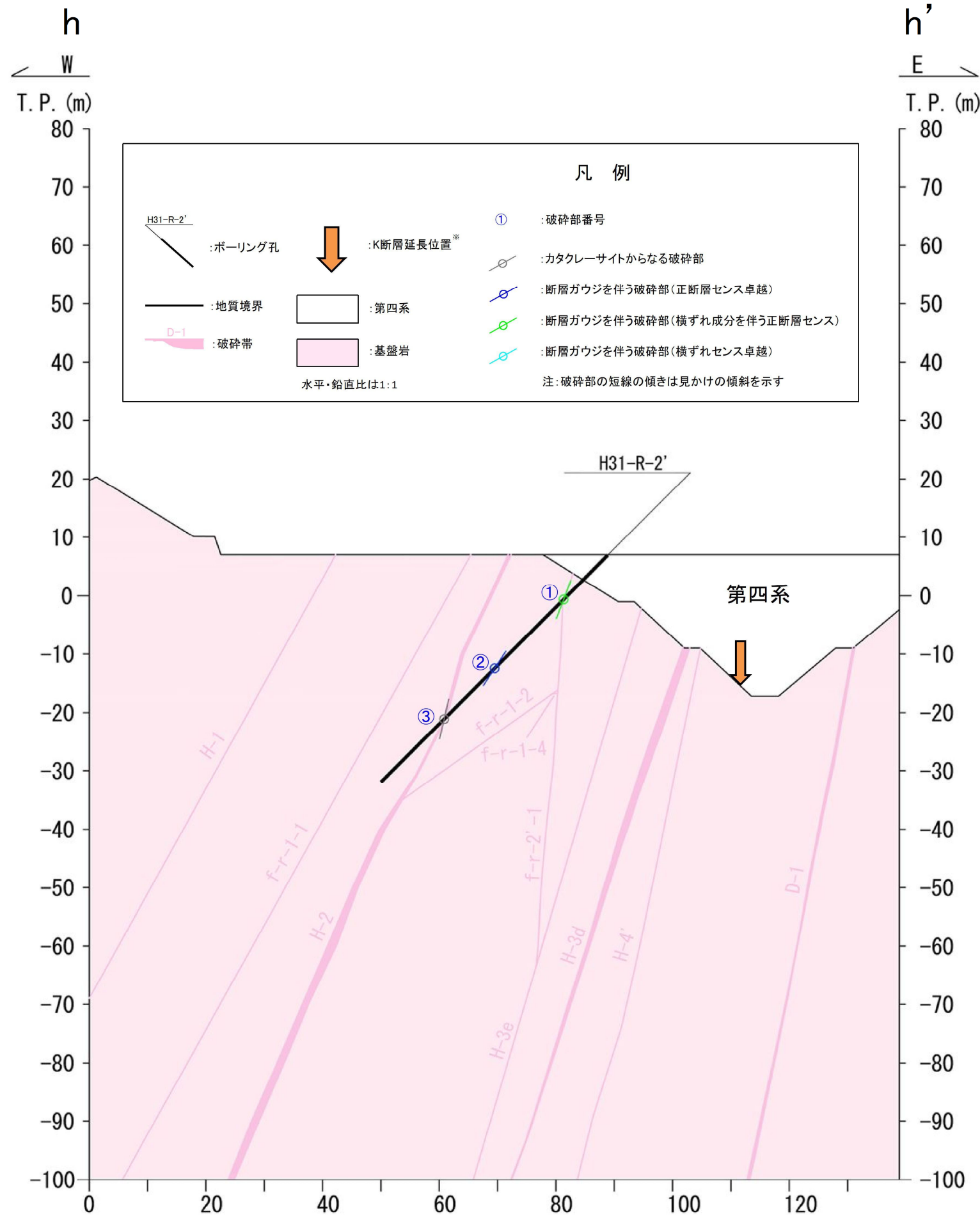
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内のもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内のもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内の可能性のあるもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状等が類似するもの

起点破碎部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破碎部について検討を実施するため、上記囲み内の条件は適用しない。

拡大範囲3



第7.4.4.119図(12) K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破碎部との連続性の確認 (拡大範囲3)



※: K断層延長位置は、以下に示す方法により求めた走向・傾斜を用いた。
 (走向は、T.P.-15mにおけるK断層の端部を結んだ線の方角(N7W)とした。
 傾斜は、K断層とほぼ直交するD-1トレンチの断面C-C'におけるK断層の上端と下端を結んだ線の傾き(78W)とした。)

第7.4.4.119図(13) K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破碎部との連続性の確認 (h-h' 断面)

連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	断面図上の番号	破碎帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破碎部の性状				最新活動以前に形成された破碎部の性状等 注) 1	連続性検討結果	破碎帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・断層角礫の有無	明瞭なせん断構造・変形構造の有無	条線	変位センス N：正断層 RL：右横ずれ R：逆断層 LL：左横ずれ			
				(m)	(m)											
ふげん道路ピット		-		EL+14.8m		N5W		67W		有	有	注) 2	R		K断層	
-	H31-R-2'	-	①	9.92	11.01	N12E	17	69W	2	有	無	50R	N,LL	×	f-r-2'-1	
			②	27.43	27.48	N2E	7	57W	10	有	無	70R	N	×		
			③	39.00	39.83	N13E	18	77W	10	無	-	30R	R,RL	×	H-2	

注) 1 最新活動以前に形成された破碎部の性状等について起点破碎部と対象破碎部の性状が類似しているかを確認する。
 注) 2 ふげん道路ピットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。
 -: データを取得していない箇所

	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内のもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内のもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内の可能性のあるもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状等が類似するもの

起点破碎部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破碎部について検討を実施するため、上記囲み内の条件は適用しない。

連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	断面図上の番号	破碎帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破碎部の性状				最新活動以前に形成された破碎部の性状等注) 1	連続性検討結果	破碎帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・断層角礫の有無	明瞭なせん断構造・変形構造の有無	条線	変位センス N：正断層 RL：右横ずれ R：逆断層 LL：左横ずれ			
				(m)	(m)											
ふげん道路ピット		-		EL+14.8m		N5W		67W		有	有	注) 2	R			K断層
-	H24-D1-3	-	①*	13.94	14.06	N26E	31	77W	10	有	有	15L	LL		×	H-3d
			②**	14.41	14.52	N31E	36	66NW	1	有	有	20L	RL		×	H-4'
			③***	34.23	34.52	N12W	7	89W	22	有	有	75L	N		×	D-1
			④	52.13	52.28	N7E	12	70W	3	有	無	0	RL		×	
			⑤	56.88	57.24	N2E	7	89W	22	有	有	50L	N,RL		×	D-35

注)1 最新活動以前に形成された破碎部の性状等について起点破碎部と対象破碎部の性状が類似しているかを確認する。
 注)2 ふげん道路ピットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。
 -: データを取得していない箇所

■	起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内のもの
■	起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内のもの
■	起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内の可能性のあるもの
■	起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
■	起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
■	起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの
■	起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの
■	起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状等が類似するもの

起点破碎部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破碎部について検討を実施するため、上記囲み内の条件は適用しない。

- * 深度13.94~14.06mの破碎部について、H24-D1-3孔のボーリング柱状図には、ボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として「破碎部(H-3d破碎帯)」と記載されている。
 一方、当該破碎部はN-S走向、西傾斜、ガウジを伴う左横ずれセンスであり、最新活動で形成された破碎部の性状や最新活動以前に形成された破碎部の性状等の類似性からH-3d破碎帯であると評価した。
- ** 深度14.41~14.52mの破碎部について、H24-D1-3孔のボーリング柱状図には、ボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として「破碎部(H-4'破碎帯)」と記載されている。
 一方、当該破碎部はN-S走向、西傾斜、ガウジを伴う右横ずれセンスであり、最新活動で形成された破碎部の性状や最新活動以前に形成された破碎部の性状等の類似性からH-4'破碎帯であると評価した。
- *** 深度34.23~34.52mの破碎部について、H24-D1-3孔のボーリング柱状図には、ボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として「破碎部(D-1破碎帯)」と記載されている。
 一方、当該破碎部はN-S走向、西傾斜、ガウジを伴う正断層センスであり、最新活動で形成された破碎部の性状や最新活動以前に形成された破碎部の性状等の類似性からD-1破碎帯であると評価した。

連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性 検討範囲	断面図上の 番号	破砕帯範囲		走向	比較対象との 走向の差 (°)	傾斜	比較対象との 傾斜の差 (°)	最新活動で形成された破砕部の性状				最新活動以前に 形成された 破砕部の性状等 注) 1	連続性 検討結果	破砕帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・ 断層角礫 の有無	明瞭な せん断構造・ 変形構造 の有無	条線	変位センス N：正断層 RL：右横ずれ R：逆断層 LL：左横ずれ			
				(m)	(m)											
ふげん道路ピット		-		EL+14.8m		N5W		67W		有	有	注) 2	R		K断層	
-	H24-D1-2	-	①*	12.38	12.97	N11W	6	75W	8	有	有	80R	N	×	D-1	
			②	19.78	19.87	N16E	21	65W	2	無	-	5L	LL	×		
			③	31.44	31.46	N3W	2	63W	4	有	有	5L	RL	×		

注) 1 最新活動以前に形成された破砕部の性状等について起点破砕部と対象破砕部の性状が類似しているかを確認する。
 注) 2 ふげん道路ピットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。
 -: データを取得していない箇所

■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内のもの
■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内のもの
■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内の可能性のあるもの
■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの
■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの
■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状等が類似するもの

起点破砕部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破砕部について検討を実施するため、上記囲み内の条件は適用しない。

* 深度12.38~12.97mの破砕部について、H24-D1-2孔のボーリング柱状図には、ボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として「破砕部(D-1断層)」と記載されている。
 一方、当該破砕部はN-S走向、西傾斜、ガウジを伴う正断層センスであり、最新活動で形成された破砕部の性状や最新活動以前に形成された破砕部の性状等の類似性からD-1破砕帯であると評価した。

連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	断面図上の番号	破砕帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破砕部の性状				最新活動以前に形成された破砕部の性状等 注) 1	連続性検討結果	破砕帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・断層角礫の有無	明瞭なせん断構造・変形構造の有無	条線	変位センス N：正断層 RL：右横ずれ R：逆断層 LL：左横ずれ			
				(m)	(m)											
ふげん道路ピット		-		EL+14.8m		N5W		67W		有	有	注) 2	R		K断層	
-	H24-D1-4	-	①*	10.91	10.93	N13W	8	78W	11	有	有	80L	N	×	D-1	
			②	27.75	28.43	N6E	11	83W	16	有	有	90	N	×	D-35	
			③	52.97	53.46	N41E	46	50NW	17	無	-	70R	N	×		
			④	60.06	60.38	N18E	23	86W	19	有	無	5R	LL	×		
			⑤	61.47	61.52	N27W	22	83W	16	有	無	60L	N,RL	×	f-d1-4-5	
			⑥	63.67	63.90	N20E	25	88W	21	無	-	66L	R	×		

注) 1 最新活動以前に形成された破砕部の性状等について起点破砕部と対象破砕部の性状が類似しているかを確認する。
 注) 2 ふげん道路ピットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。
 -: データを取得していない箇所

■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内のもの
■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内のもの
■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内の可能性のあるもの
■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの
■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの
■	: 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状等が類似するもの

起点破砕部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破砕部について検討を実施するため、上記囲み内の条件は適用しない。

* 深度10.91~10.93mの破砕部について、H24-D1-4孔のボーリング柱状図には、ボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として「破砕部(D-1破砕帯)」と記載されている。
 一方、当該破砕部はN-S走向、西傾斜、ガウジを伴う正断層センスであり、最新活動で形成された破砕部の性状や最新活動以前に形成された破砕部の性状等の類似性からD-1破砕帯であると評価した。

連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性 検討範囲	断面図上 の番号	破碎帯範囲		走向	比較対象との 走向の差 (°)	傾斜	比較対象との 傾斜の差 (°)	最新活動で形成された破碎部の性状				最新活動以前に 形成された 破碎部の性状等 注) 1	連続性 検討結果	破碎帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・ 断層角礫 の有無	明瞭な せん断構造・ 変形構造 の有無	条線	変位センス N：正断層 RL：右横ずれ R：逆断層 LL：左横ずれ			
				(m)	(m)											
ふげん道路ピット		-		EL+14.8m		N5W		67W		有	有	注) 2	R		K断層	
-	H27-B-3	-	①	26.70	26.90	N18E	23	61W	6	有	無	20L	LL		×	f-r-1-1
			②	28.12	28.14	N15E	20	64W	3	無	-	10L	LL		×	
			③	29.10	29.12	N31E	36	51NW	16	有	有	0	LL		×	
			④	42.85	42.91	NS	5	71W	4	有	無	0	RL		×	H-2
			⑤	56.69	56.72	N2W	3	36W	31	有	無	30L	N,RL		×	f-r-1-2
			⑥	58.89	58.98	N11W	6	54W	13	有	無	0	LL		×	
			⑦	59.69	59.75	N37E	42	48NW	19	有	無	50L	N,RL		×	
			⑧	76.59	76.89	N42E	47	14W	53	有	有	7R	RL		×	
			⑨	91.35	91.54	N12E	17	75W	8	有	無	0	LL		×	H-3e
			⑩	99.50	99.68	N15W	10	89E	24	有	無	2R	LL		×	H-3d
			⑪	115.00	115.12	N36E	41	87NW	20	有	無	56L	N,RL		×	H-4'
			⑫	119.11	119.25	N20E	25	87W	20	有	有	60L	N,RL		×	D-1
			⑬	129.84	129.91	N27E	32	86E	27	無	-	90	R		×	

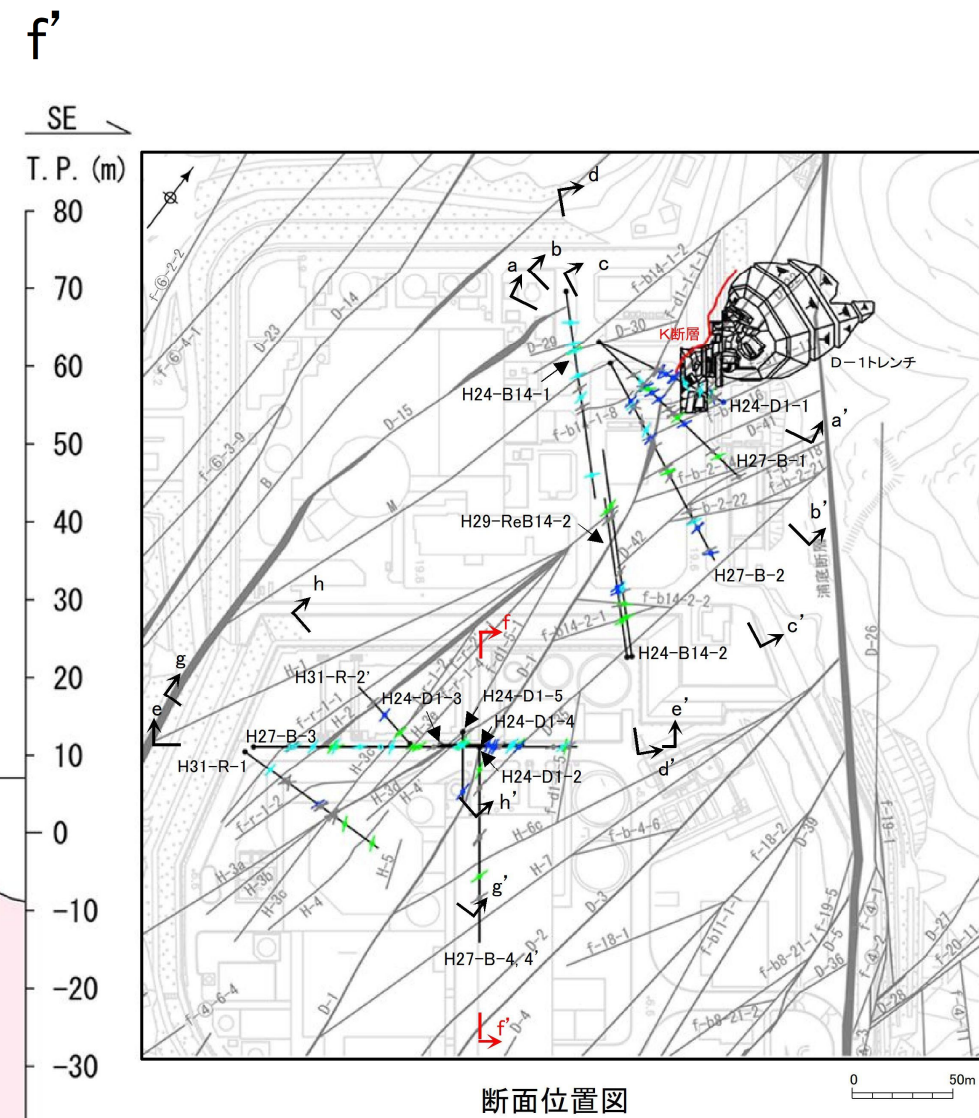
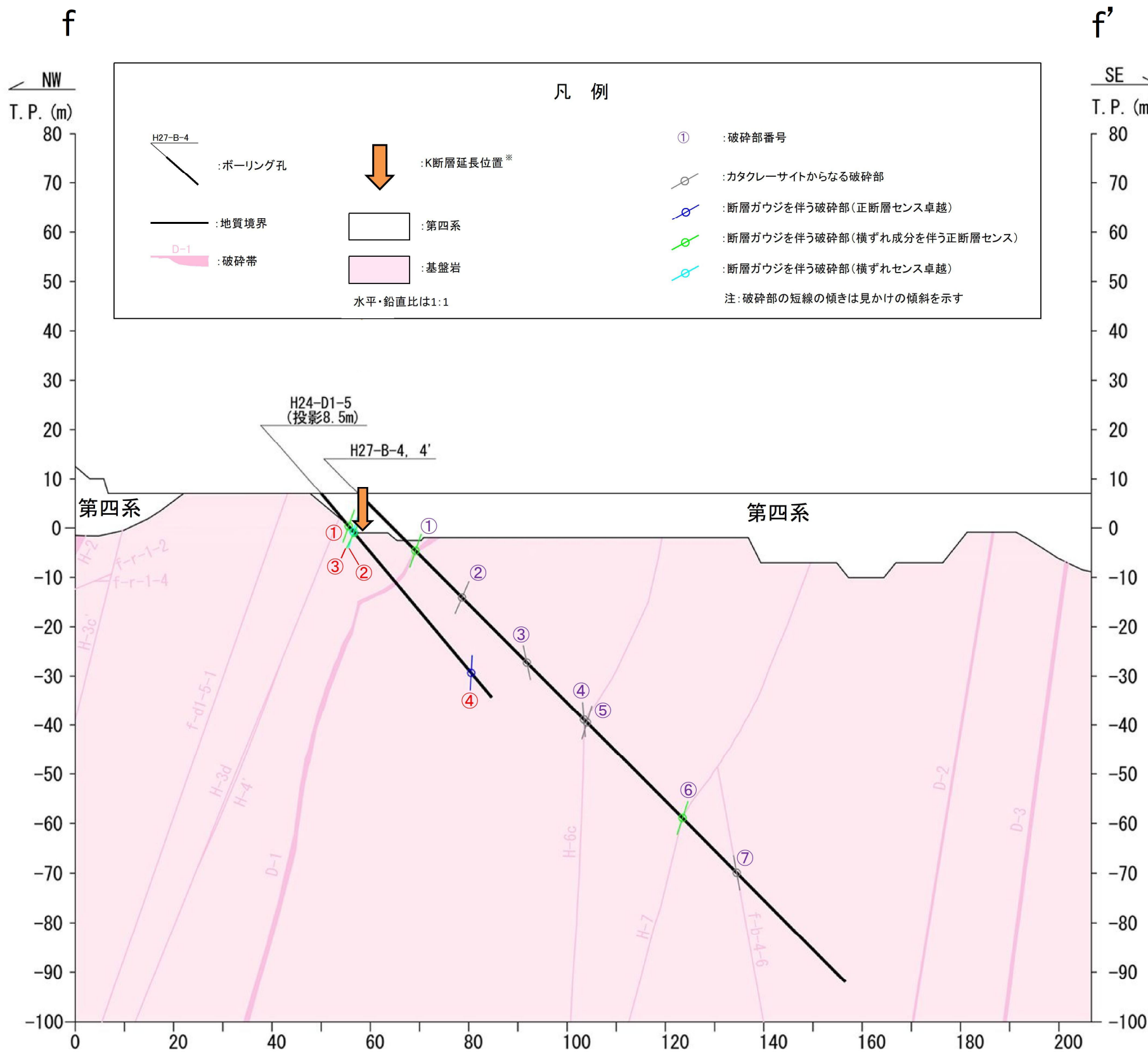
注) 1 最新活動以前に形成された破碎部の性状等について起点破碎部と対象破碎部の性状が類似しているかを確認する。

注) 2 ふげん道路ピットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。

—: データを取得していない箇所

: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内のもの	
: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内のもの	
: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内の可能性のあるもの	
: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの	
: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの	
: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの	
: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの	
: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状等が類似するもの	

起点破碎部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破碎部について検討を実施するため、上記囲み内の条件は適用しない。



※: K断層延長位置は、以下に示す方法により求めた走向・傾斜を用いた。
 (走向は、T.P.-15mにおけるK断層の端部を結んだ線(方向N7W)とした。
 傾斜は、K断層とほぼ直交するD-1トレンチの断面C-C'におけるK断層の上端と下端を結んだ線の傾き(78W)とした。)

第7.4.4.119図(20) K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破砕部との連続性の確認 (f-f' 断面)

連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	断面図上の番号	破碎帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破碎部の性状				最新活動以前に形成された破碎部の性状等注) 1	連続性検討結果	破碎帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・断層角礫の有無	明瞭なせん断構造・変形構造の有無	条線	変位センス N:正断層 RL:右横ずれ R:逆断層 LL:左横ずれ			
				(m)	(m)											
ふげん道路ピット		-		EL+14.8m		N5W		67W		有	有	注) 2	R			K断層
-	H27-B-4	-	①	15.91	16.36	-	-	-	-	有	有	-	-		×	D-1
	H27-B-4'		①	23.97	24.42	N16W	11	83W	16	有	有	60L	N,RL		×	D-1
	H27-B-4		②	29.74	29.78	N1E	6	75W	8	無	-	31L	N,RL		×	
			③	48.39	48.43	N48E	53	78SE	35	無	-	80R	N		×	
			④	64.65	64.91	N4E	9	87E	26	無	-	50L	N,RL		×	H-6c
			⑤	65.59	65.72	N1W	4	80W	13	無	-	59L	N,RL		×	
			⑥	93.13	93.22	N17E	22	75W	8	有	有	42R	N,LL		×	H-7
			⑦	108.44	108.71	N39E	44	80SE	33	無	-	22L	RL		×	f-b-4-6

注) 1 最新活動以前に形成された破碎部の性状等について起点破碎部と対象破碎部の性状が類似しているかを確認する。
 注) 2 ふげん道路ピットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。
 -: データを取得していない箇所

	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内のもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内のもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内の可能性のあるもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの
	: 起点の破碎部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破碎部の性状等が類似するもの

起点破碎部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破碎部について検討を実施するため、上記囲み内の条件は適用しない。

連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	断面図上の番号	破砕帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破砕部の性状				最新活動以前に形成された破砕部の性状等 注) 1	連続性検討結果	破砕帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・断層角礫の有無	明瞭なせん断構造・変形構造の有無	条線	変位センス N：正断層 RL：右横ずれ R：逆断層 LL：左横ずれ			
				(m)	(m)											
ふげん道路ピット		-		EL+14.8m		N5W		67W		有	有	注) 2	R		K断層	
-	H24-D1-5	-	①	8.51	8.71	N7W	2	80W	13	有	有	64L	N,RL	×	f-d1-5-1	
			②*	10.19	10.21	N14E	19	77W	10	有	有	20L	LL	×	H-3d	
			③**	10.45	10.50	N31E	36	65NW	2	有	有	39L	N,RL	×	H-4'	
			④***	47.47	47.89	N1E	6	88W	21	有	有	80L	N	×	D-1	

注) 1 最新活動以前に形成された破砕部の性状等について起点破砕部と対象破砕部の性状が類似しているかを確認する。
 注) 2 ふげん道路ピットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。
 -：データを取得していない箇所

	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内のもの	
	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内のもの	
	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内の可能性があるもの	
	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの	
	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの	
	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの	
	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの	
	起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状等が類似するもの	

起点破砕部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破砕部について検討を実施するため、上記囲み内の条件は適用しない。

- * 深度10.19~10.21mの破砕部について、H24-D1-5孔のボーリング柱状図には、ボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として「破砕部(H-3d破砕帯)」と記載されている。
 一方、当該破砕部はN-S走向、西傾斜、ガウジを伴う左横ずれセンスであり、最新活動で形成された破砕部の性状や最新活動以前に形成された破砕部の性状等の類似性からH-3d破砕帯であると評価した。
- ** 深度10.45~10.50mの破砕部について、H24-D1-5孔のボーリング柱状図には、ボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として「破砕部(H-4'破砕帯)」と記載されている。
 一方、当該破砕部はN-S走向、西傾斜、ガウジを伴う右横ずれ正断層センスであり、最新活動で形成された破砕部の性状や最新活動以前に形成された破砕部の性状等の類似性からH-4'破砕帯であると評価した。
- *** 深度47.47~47.89mの破砕部について、H24-D1-5孔のボーリング柱状図には、ボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として「破砕部(D-1破砕帯)」と記載されている。
 一方、当該破砕部はN-S走向、西傾斜、ガウジを伴う正断層センスであり、最新活動で形成された破砕部の性状や最新活動以前に形成された破砕部の性状等の類似性からD-1破砕帯であると評価した。